資料4－2

令和8年度保護林モニタリング調査（案）
（個票）

令和8年3月3日

北海道森林管理局

（希少種の情報が含まれるため一部非公開）

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

礼文島生物群集保護林

面積	2,391.30 ha	保護対象	礼文島の生物群集を有する森林
モニタリング間隔	5年ごとにモニタリング（保護増殖事業計画に基づくレブンアツモリソウの調査等は毎年実施）		

希少種の情報が
含まれるため非公開

希少種の情報が
含まれるため非公開

※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング結果

＜巡視＞
・盗掘及び踏み付け防止のため、ロープによる立入規制等の必要な措置を実施している。

＜レブンアツモリソウ調査結果＞
・植生調査の個体数は減少傾向ではあるが、近年は70個体前後で推移している。
・開花数調査の結果は、196個体であり、調査地内の個体数は維持されている。

令和8年度モニタリング調査（案）

モニタリング間隔に基づき、保護増殖事業計画に係る巡視及びレブンアツモリソウの調査を実施する。

・巡視
・レブンアツモリソウ調査（開花数調査：2地点、植生調査：22地点）
※来年度以降の調査方法については、現在レブンアツモリソウ保護増殖検討会にて検討しているところである。

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

千歳シラネアオイ希少個体群保護林

面積	13.88 ha	保護対象	シラネアオイ
モニタリング間隔	森林調査は5年ごと、シラネアオイの開花状況を毎年早春期にモニタリング		

希少種の情報が含まれるため非公開

※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響【野生鳥獣】
・シラネアオイの生育数は極めて少ない。
・立木は比較的健全だった。
・下層植生においてシカの痕跡が非常に多く確認された。
・シラネアオイ個体群の維持を目指す場合は早急なシカ対策が必要である。

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査（案）

モニタリング間隔に基づき、開花数調査を実施する。
また、保護対象へのシカの顕著な影響が確認されているため、シカ侵入防止対策を行うこととする。

【モニタリング調査項目】
・職員による開花状況調査

【復元】
・シラネアオイが生育している箇所の周囲をシカ防止ネットで囲うこととする。

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

天狗岳高山植物希少個体群保護林

面積	177.45 ha	保護対象	高山植物
モニタリング間隔	樹木調査については10年ごと、下層植生と方形区プロットについては2年ごとにモニタリング		

希少種の情報が含まれるため非公開

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・全体的に樹木の生育状況は健全であった。
・タカネノガリヤスが優占し、他にシラネアオイ等の高山植生がみられた。

希少種の情報が含まれるため非公開

・保護林はおおむね良好に維持、管理されている
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

モニタリング間隔に基づき、下層植生の森林詳細調査を実施する。
また、病虫害等の影響を確認するために森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査(下層植生):2地点
・森林詳細調査(植生方形区調査):2地点
＜選択項目＞
・森林概況調査(病虫害等):1ルート※
※森林詳細調査プロットまでの経路で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

シマフクロウ希少個体群保護林

面積	9,180.31 ha	保護対象	シマフクロウ及びその生育・生息に必要な森林
モニタリング間隔	1年ごとにモニタリング（保護増殖事業計画に基づく調査等）		

前回モニタリング結果

＜巡視＞
・保護林内（9地区）において、178日（延日数）の巡視を実施し、生息・痕跡等の確認や入込者等の動向把握等を行った。
・巡視中に留意すべき事項は確認されなかった。

＜給餌＞
・保護林内の給餌池（十勝総合振興局管内）において、ニジマスを11月～3月に計8回、240kgの給餌を実施。

＜標識調査（環境省）＞（環境省報道発表（2025年07月18日）「2025年度（令和７年度）のシマフクロウ標識調査では、 61羽のヒナに標識を装着することができました。」より）
・ 45巣（つがい）において、計61羽のヒナに標識を装着。
・ 年度ごとに多少上下しながらも、標識ヒナ数は年々増加してきており、特にこの５～６年の伸びは顕著である。
・ 日高山系地域を除くシマフクロウの各地域個体群（知床・根釧・大雪山系）においても過去最多の標識数となった。

令和8年度モニタリング調査(案)

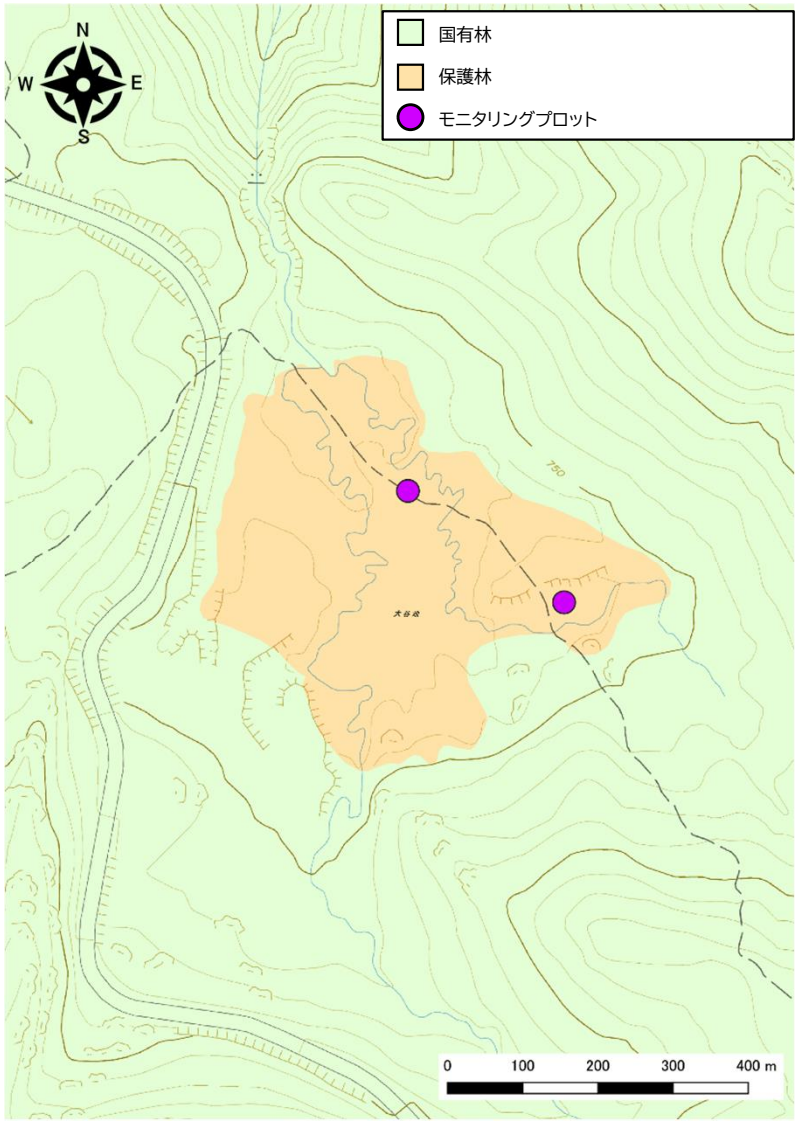
モニタリング間隔に基づき、保護増殖事業計画に係る巡視及び調査を実施する。(詳細は調整中)

・巡視
・給餌
・標識調査調査(環境省)

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

大谷地フサスギナ希少個体群保護林

面積	18.33 ha	保護対象	フサスギナ
モニタリング間隔	5年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・H28年調査と比較して、大きな変化は認められなかった。
・プロット1において、フサスギナの生息密度は前回調査時からやや減少し、プロット2において、フサスギナの生息は確認されなかった。
・フサスギナの生息数に留意する。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

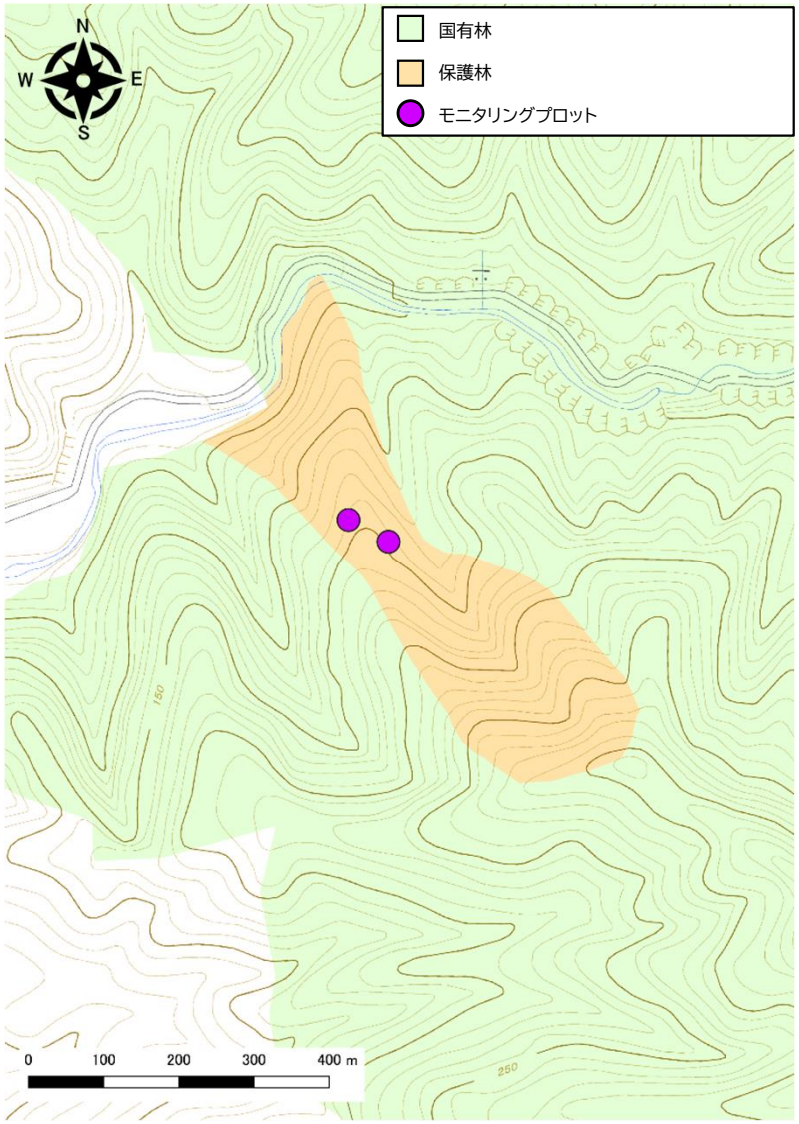
森林詳細調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査(樹木・下層植生)：2地点
＜選択項目＞
・森林詳細調査(病虫害等)：2地点※
※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

大成シナノキ等遺伝資源希少個体群保護林

面積	11.60 ha	保護対象	シナノキ、イタヤカエデ、ミズナラ、アオダモ
モニタリング間隔	5年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[その他]
・H25年調査と比較して、大きな変化は認められなかった。
・プロット2でチシマザサの被度が高くなったが、大きな変化はなかった。
・樹木の病虫害は認められなかった。
・シナノキの生育は少なく、稚樹および実生も確認されず、保護対象の生育が少ないことに留意が必要。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

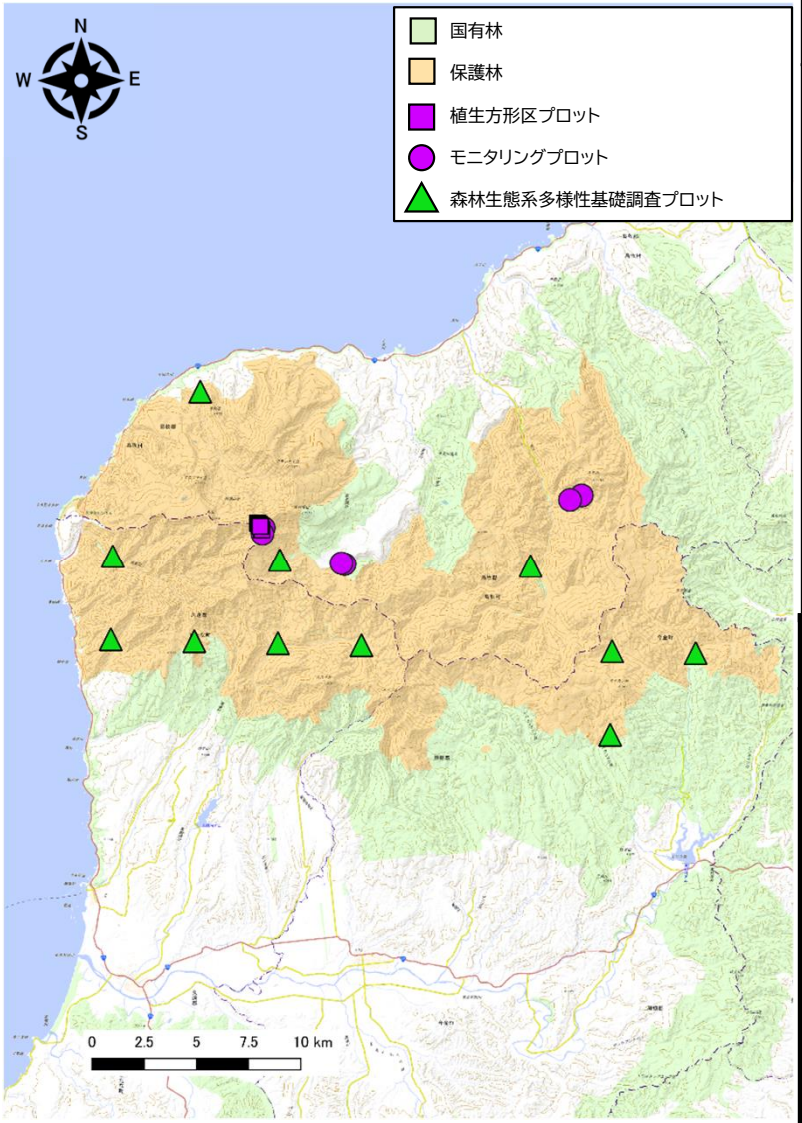
森林概況調査を実施する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査(樹木・下層植生)：2地点
＜選択項目＞
・森林詳細調査(病虫害等)：2地点※
※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

狩場山・大平山周辺森林生態系保護地域

面積	36,483.08 ha	保護対象	北海道南部を代表する渡島半島に見られる原生的な天然林
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響【特になし】
・引き続きモニタリングにより経過を観察していく。

【モニタリング調査項目】

① 狩場山地須築川源流部森林生態系保護地域
　・森林詳細調査（植生方形区調査）：6地点
② 大平山生物群集保護林
　・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点
　・資料調査（森林生態系多様性基礎調査）：2地点
③ 狩場山雪田植生希少個体群保護林
　・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点
④ 元町ブナ遺伝資源希少個体群保護林
　・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査（案）

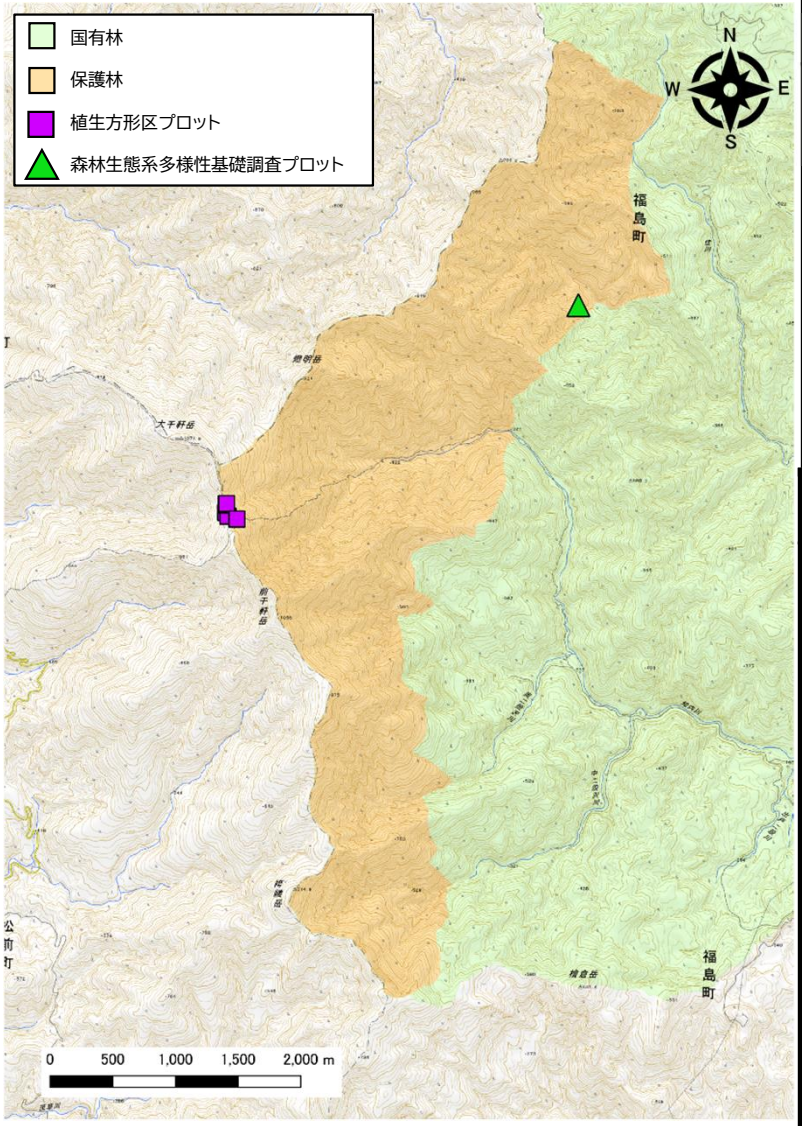
前回モニタリング後に拡充された保護林であるため、臨時の森林詳細調査を行うこととする。
また、保護林内にて実施されている森林生態系多様性基礎調査の結果を資料調査として活用する。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・資料調査（森林タイプ・利活用）
・資料調査（森林生態系多様性基礎調査）：4地点
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：6地点
・森林詳細調査（植生方形区調査）：6地点
・聞き取り調査（管理体制）

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

千軒岳生物群集保護林

面積	958.05 ha	保護対象	千軒岳周辺地域の生物群集を有する森林
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・亜高山帯の植生状況は、不到達のため不明。
・森林帯は良好な状態が確認され、概ね良好に保護・管理されている。
・引き続きモニタリングにより経過を観察していく。

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（植生方形区調査）：5地点　→未実施
・資料調査（森林生態系多様性基礎調査）：3地点　→うち1地点未実施

令和8年度モニタリング調査(案)

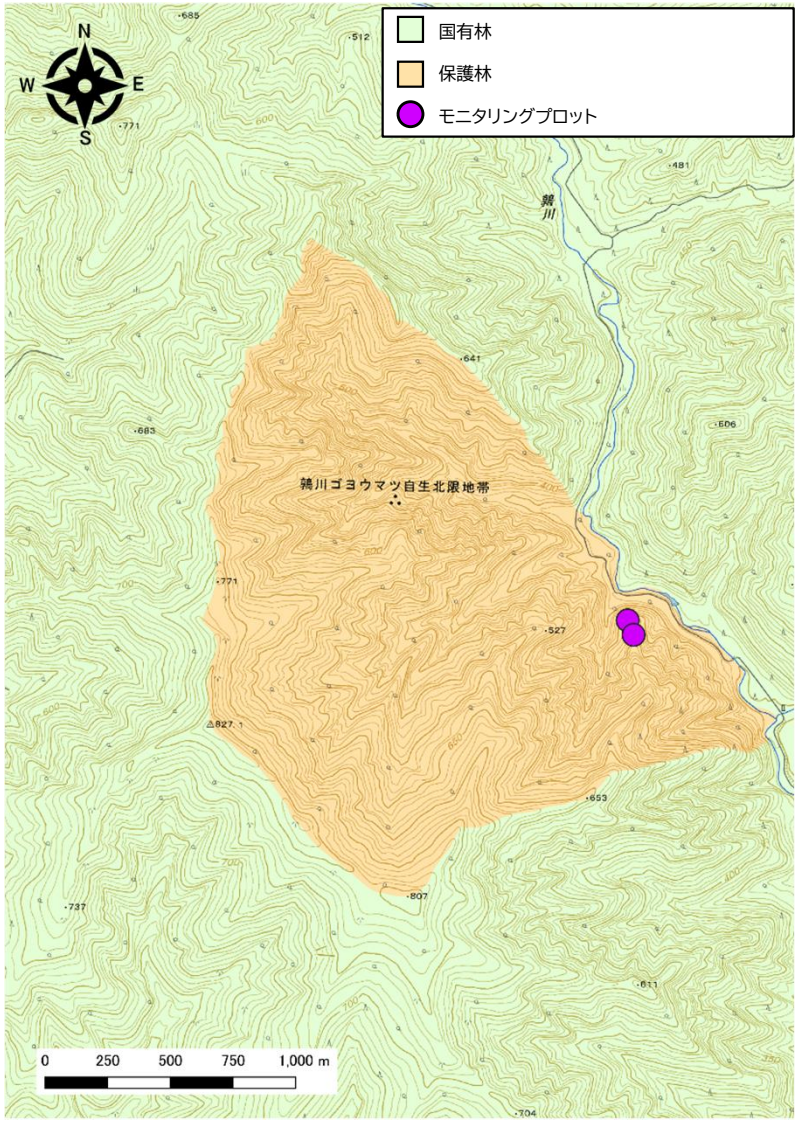
前回モニタリングでは、不到達であったため、臨時の森林詳細調査及び森林概況調査を実施する。
また、保護林内にて実施されている森林生態系多様性基礎調査の結果を資料調査として活用する。
なお、調査プロットに到達できない場合は、ドローン等によるモニタリングを実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・資料調査(森林生態系多様性基礎調査):1地点
・森林詳細調査(植生方形区調査):5地点
・森林概況調査(樹木・下層植生):1ルート※
＜選択項目＞
・森林概況調査(病虫害等):1ルート※
※森林詳細調査までのルート上で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

鶉川生物群集保護林

面積	321.27 ha	保護対象	鶉川地域の生物群集を有する森林
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・森林概況調査は、不到達のため実施していない。
・ブナが優占し、カエデ類等が混生し、林床はクマイザサが優占する。
・亜高山帯、樹林帯ともに良好な状態が確認され、概ね良好に保護・管理されている。
・巡視等によりエゾシカの影響や気象害等を注視しつつ、引き続きモニタリングにより経過を観察していく。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点　→未実施
・資料調査（森林生態系多様性基礎調査）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

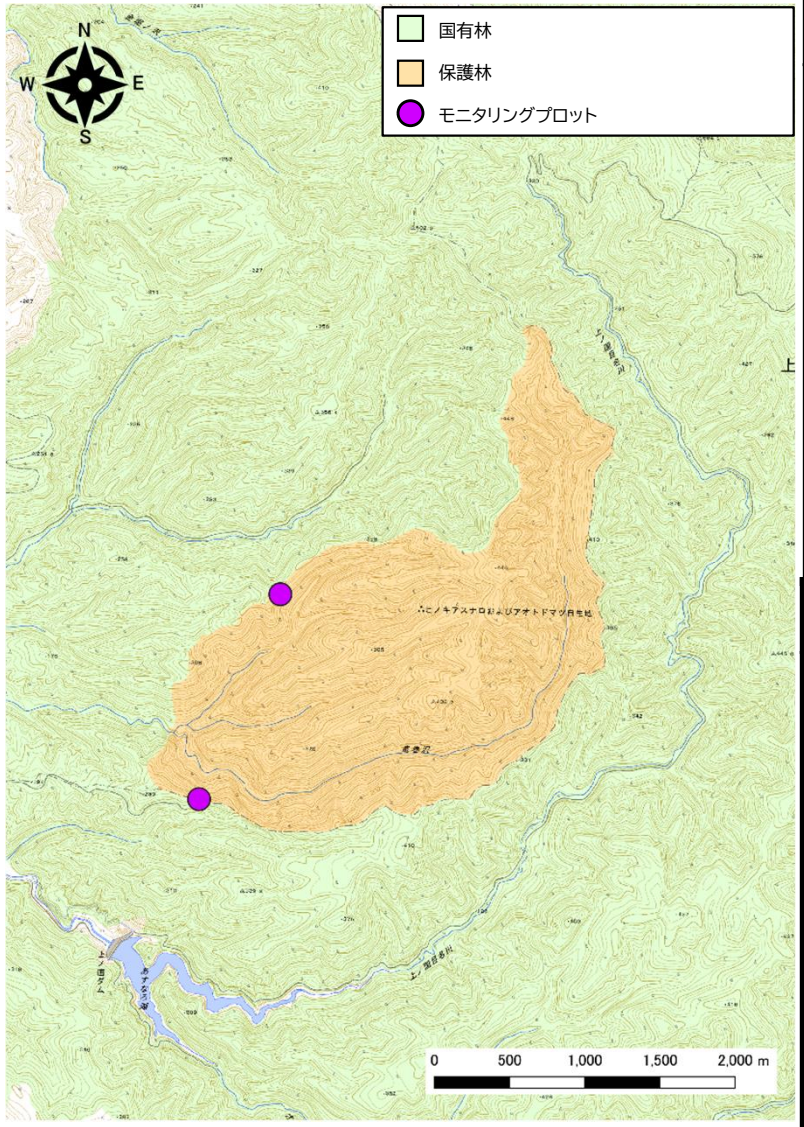
前回モニタリングでは、不到達であったため、臨時の森林概況調査を実施する。
なお、調査プロットに到達できない場合は、ドローン等によるモニタリングを実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査(樹木・下層植生)：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査(病虫害等)：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルートで実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

椴川生物群集保護林

面積	498.60 ha	保護対象	椴川地域の生物群集を有する森林
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

不到達のため不明

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：1地点　→未実施
・資料調査（森林生態系多様性基礎調査）：2地点　→未実施

令和8年度モニタリング調査（案）

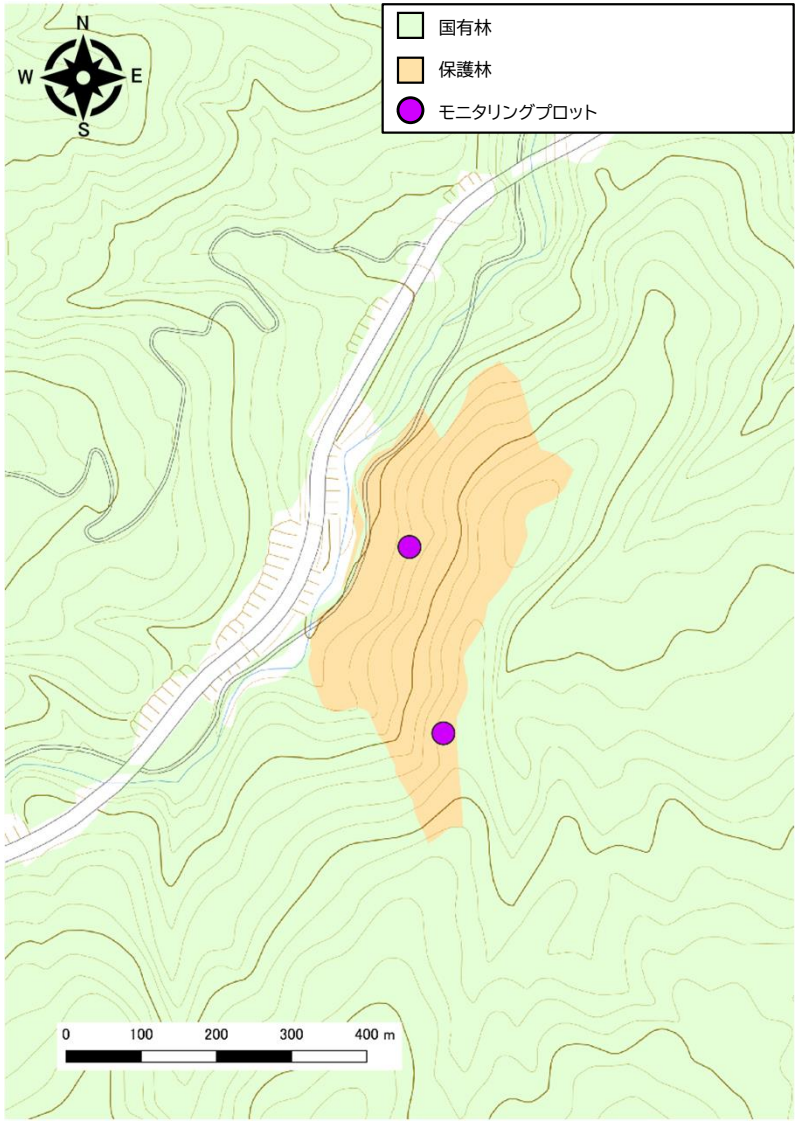
前回モニタリングでは、不到達であったため、臨時の森林概況調査を実施する。
なお、調査プロットに到達できない場合は、ドローン等によるモニタリングを実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害等）：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルートで実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

稲里ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林

面積	11.14 ha	保護対象	ウダイカンバ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・林床にはクマイザサが密生し、実生は見られない。
・保護対象の更新に留意が必要である。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

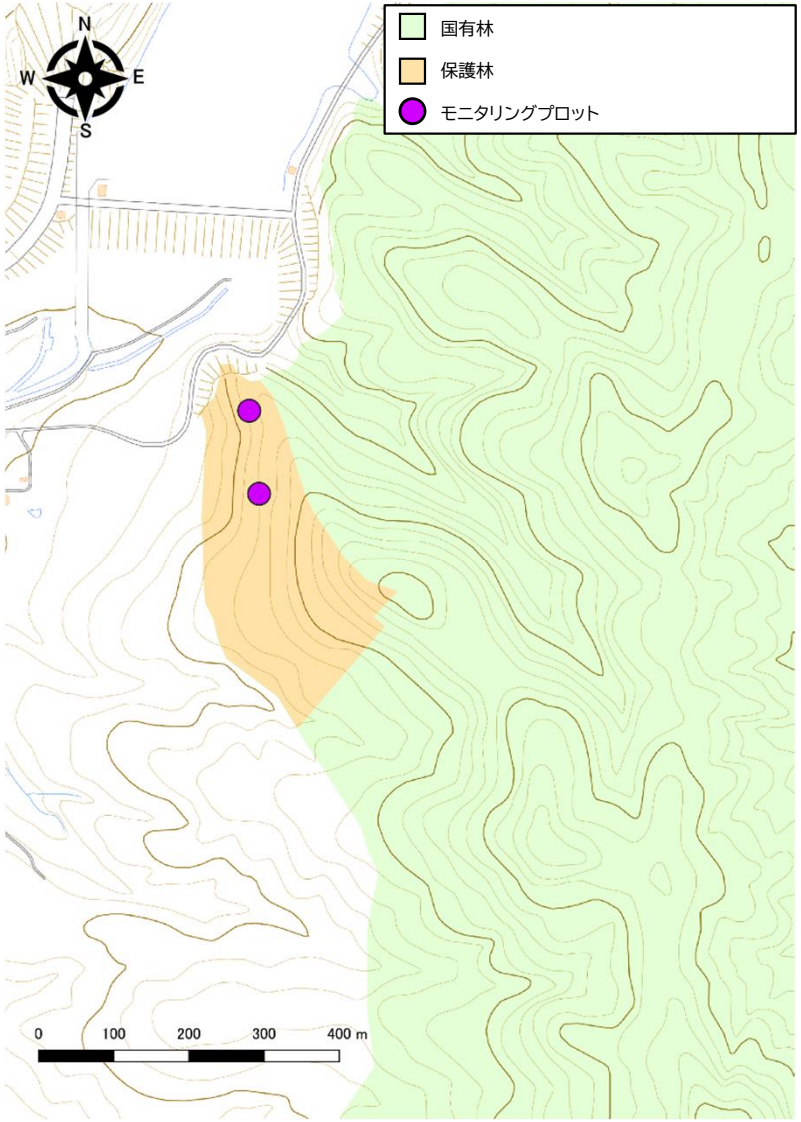
保護対象の更新に留意が必要という評価であったため、臨時の森林概況調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査(樹木・下層植生):1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査(病虫害)等:1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

稲里アサダ遺伝資源希少個体群保護林

面積	6.96 ha	保護対象	アサダ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・林床にはクマイザサが密生し、実生は見られない。
・保護対象の更新に留意が必要である。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

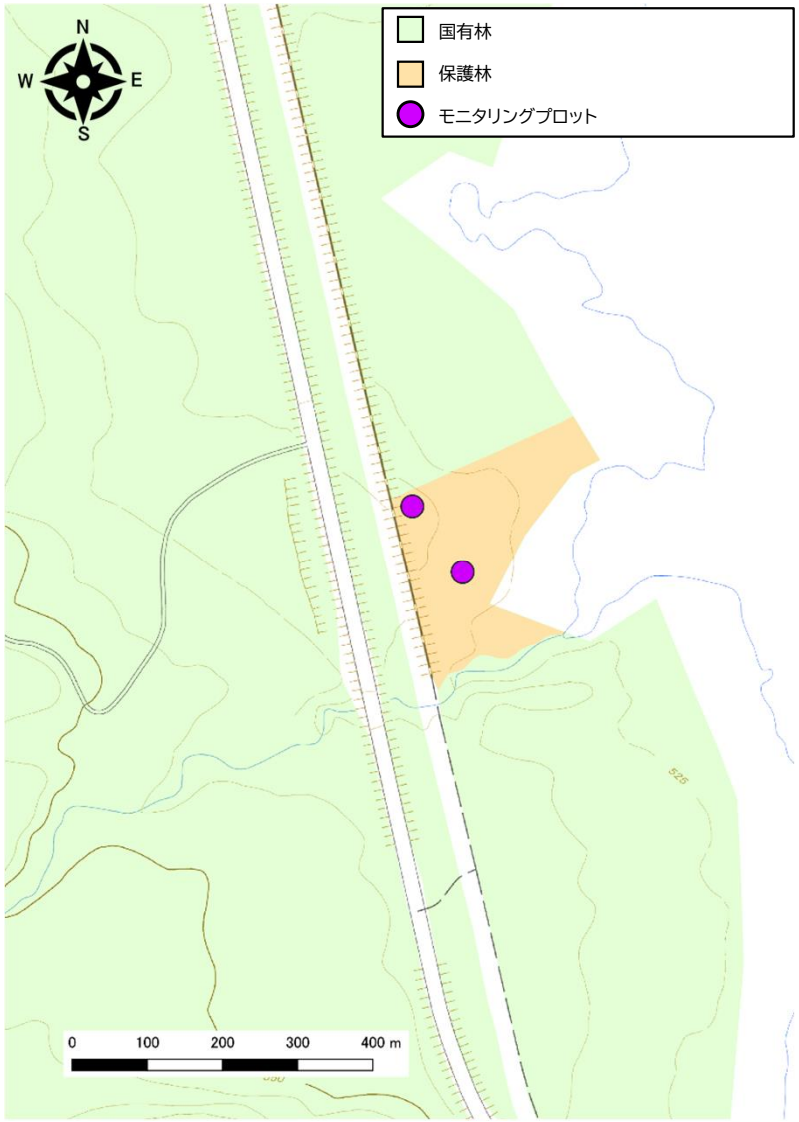
保護対象の更新に留意が必要という評価であったため、臨時の森林概況調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査(樹木・下層植生):1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査(病虫害)等:1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

糠平シラカンバ遺伝資源希少個体群保護林

面積	4.80 ha	保護対象	シラカンバ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[自然攪乱]
・枯損木が散見され、実生や低木は見られない。
・遷移が進み被圧、枯死していると考えられる。
・保護対象の生育状況については、留意が必要である。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

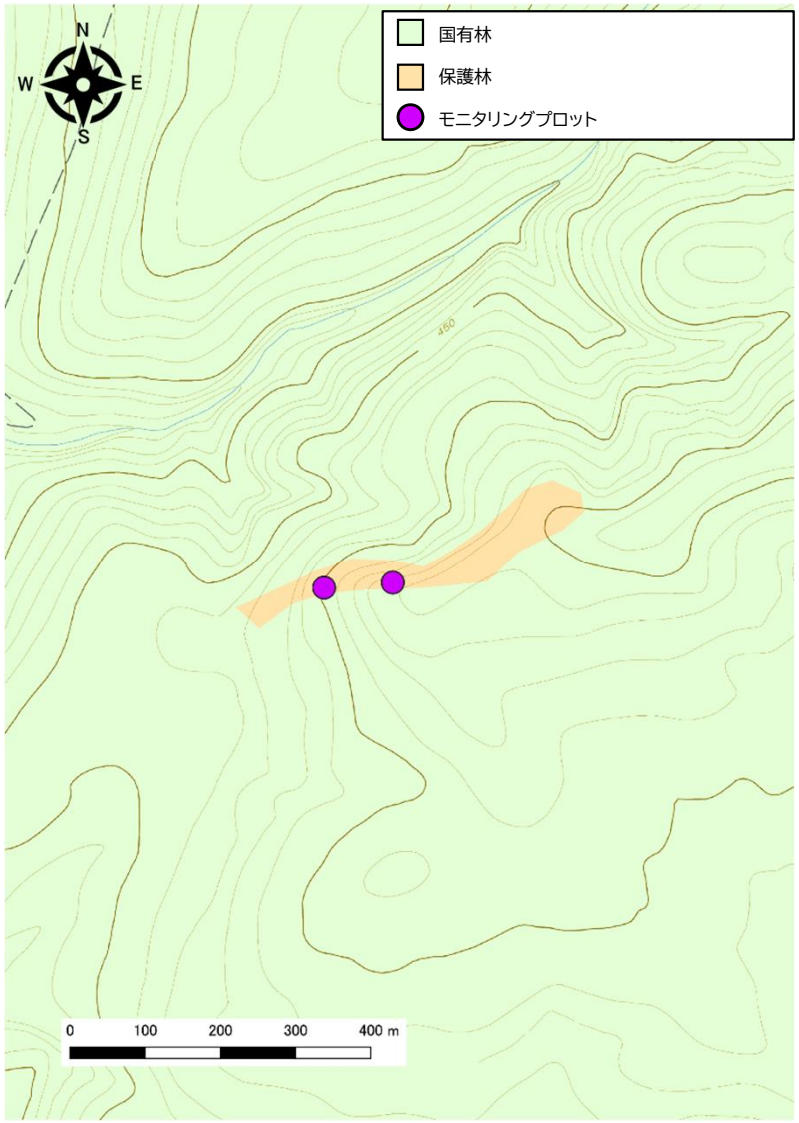
保護対象の生育状況に留意が必要という評価であったため、臨時の森林詳細調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査(樹木・下層植生)：2地点
＜選択項目＞
・森林詳細調査(病虫害等)等：2地点※
※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

屈足ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林

面積	2.14 ha	保護対象	ミズナラ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[野生鳥獣]
・シカ食害が多く、今後の林況への影響が懸念されるものの、実生は多数確認され、現状では林況は維持されると思われる。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

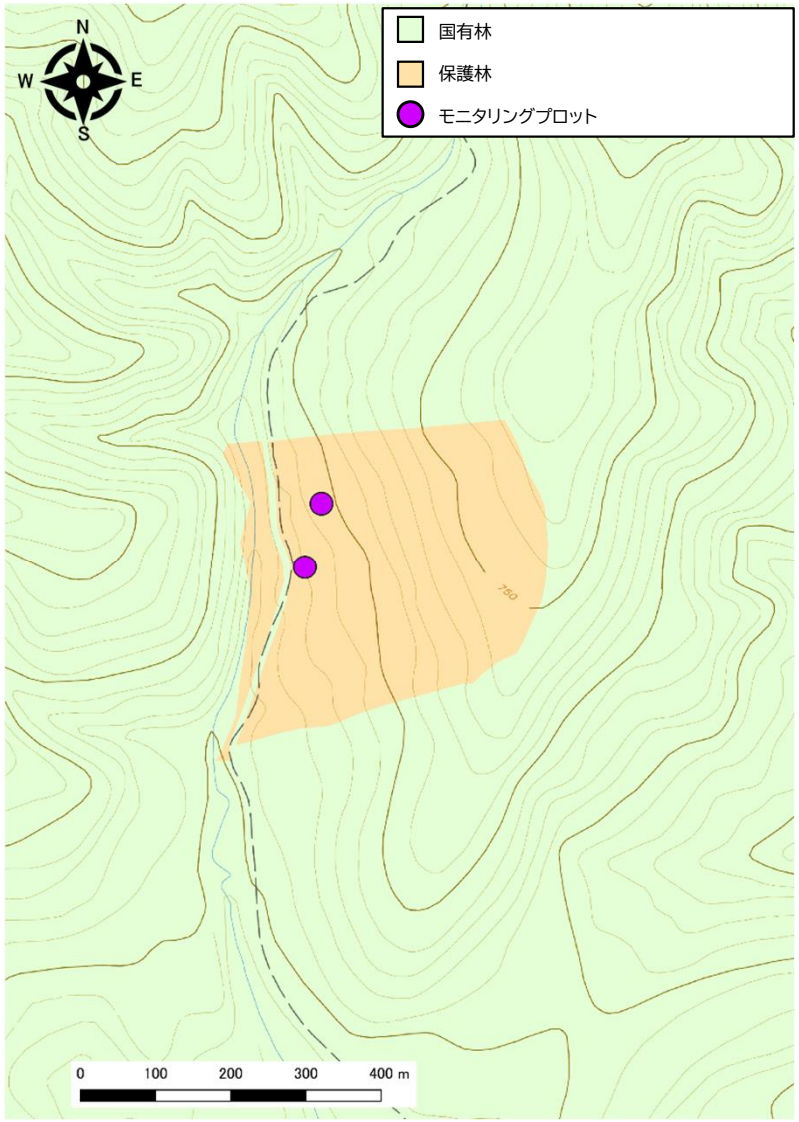
シカの食害が多く確認されているため、臨時の森林詳細調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査(樹木・下層植生)：2地点
＜選択項目＞
・森林詳細調査(病虫害)等：2地点※
※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

鹿追トドマツ遺伝資源希少個体群保護林

面積	14.05 ha	保護対象	トドマツ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・立ち枯れおよび風倒木が散見され、エゾシカ痕跡が多く見られるが、現状では保護対象種への影響は少ない。
・ギャップにトドマツとエゾマツの稚樹および幼木が多数確認され、天然更新は順調に行われると予想される。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

シカの痕跡が多く確認されているため、臨時の森林概況調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査(樹木・下層植生):1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査(病虫害)等:1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

登別ミズナラ希少個体群保護林

面積	185.87 ha	保護対象	ミズナラ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		

※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]

・エゾシカ食痕が多く見られるが保護対象種への影響は少なく、林況に大きな変化は見られない。

・ミズナラ実生は多く見られ、天然更新は順調に行われると予想される。・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】

・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

シカの食痕が多く確認されているため、臨時の森林概況調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】

＜必須項目＞

・森林概況調査(樹木・下層植生):1ルート

＜選択項目＞

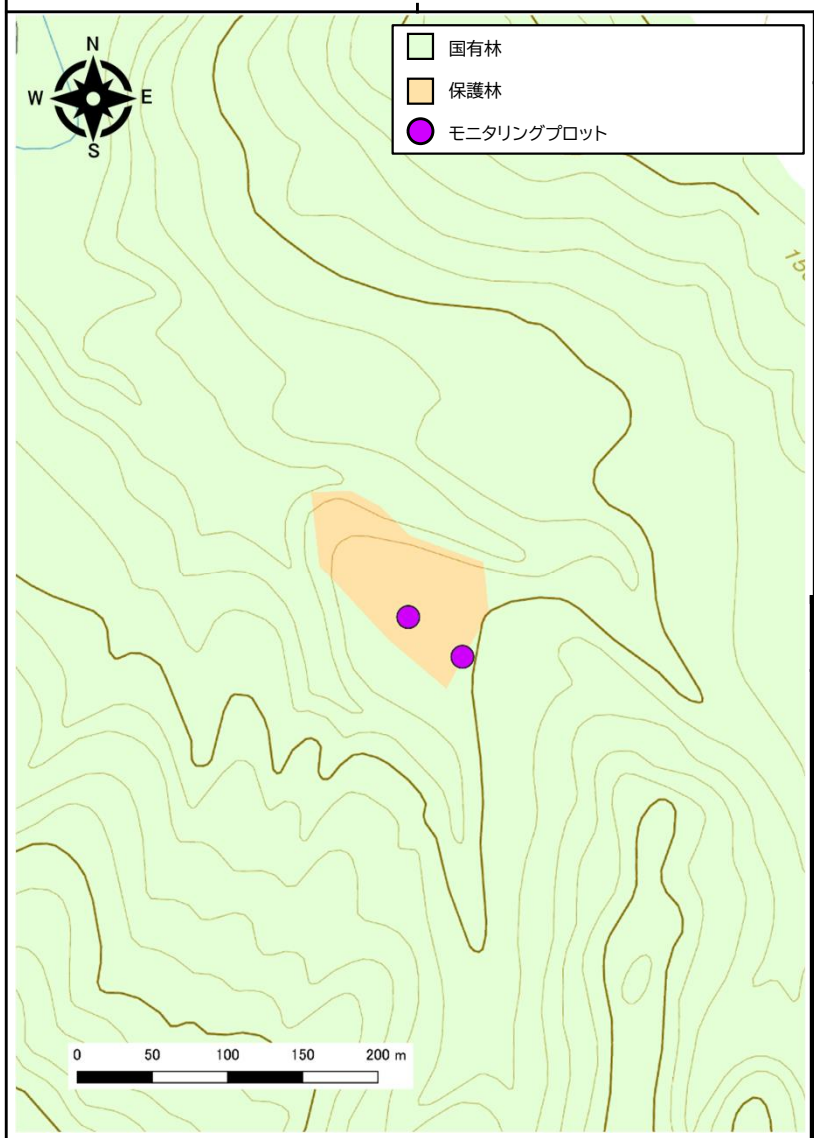
・森林概況調査(病虫害)等:1ルート※

※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

ムズルセ川トドマツ希少個体群保護林

面積	0.90 ha	保護対象	トドマツ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・エゾシカ痕跡が多く確認されたが。保護対象種への大きな影響は見られない。
・各階層にトドマツが見られ、更新は順調に行われることが予想される。
・風倒が見られるが、寿命による立ち枯れによるものと考えられる
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

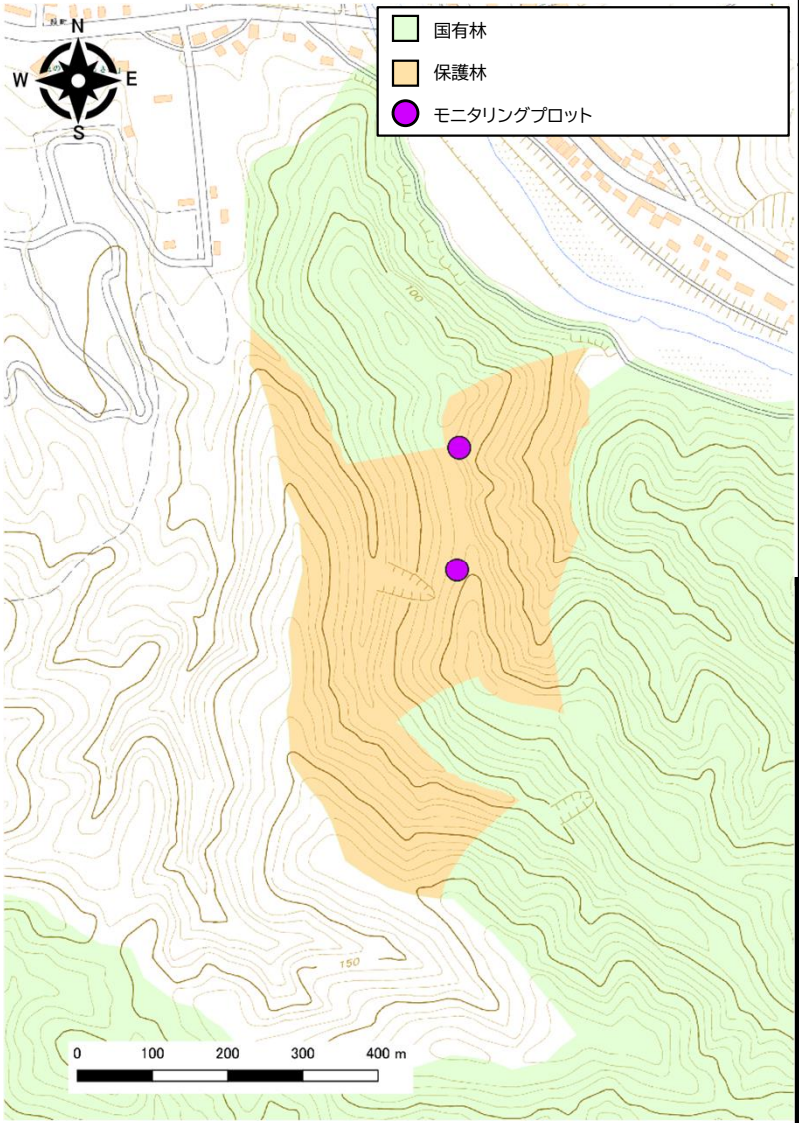
シカの痕跡が多く確認されているため、臨時の森林概況調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査(樹木・下層植生):1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査(病虫害)等:1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

厚沢部ヒノキアスナロ遺伝資源希少個体群保護林

面積	18.50 ha	保護対象	ヒノキアスナロ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・ヒノキアスナロが高木層を優占しており、被度は高く他の種は少ない。亜高木層は確認されず、低木層以下もヒノキアスナロが優占する。
・エゾシカ食痕が多く見られるものの、ヒノキアスナロ稚樹が複数確認され、更新は比較的順調に行われている
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

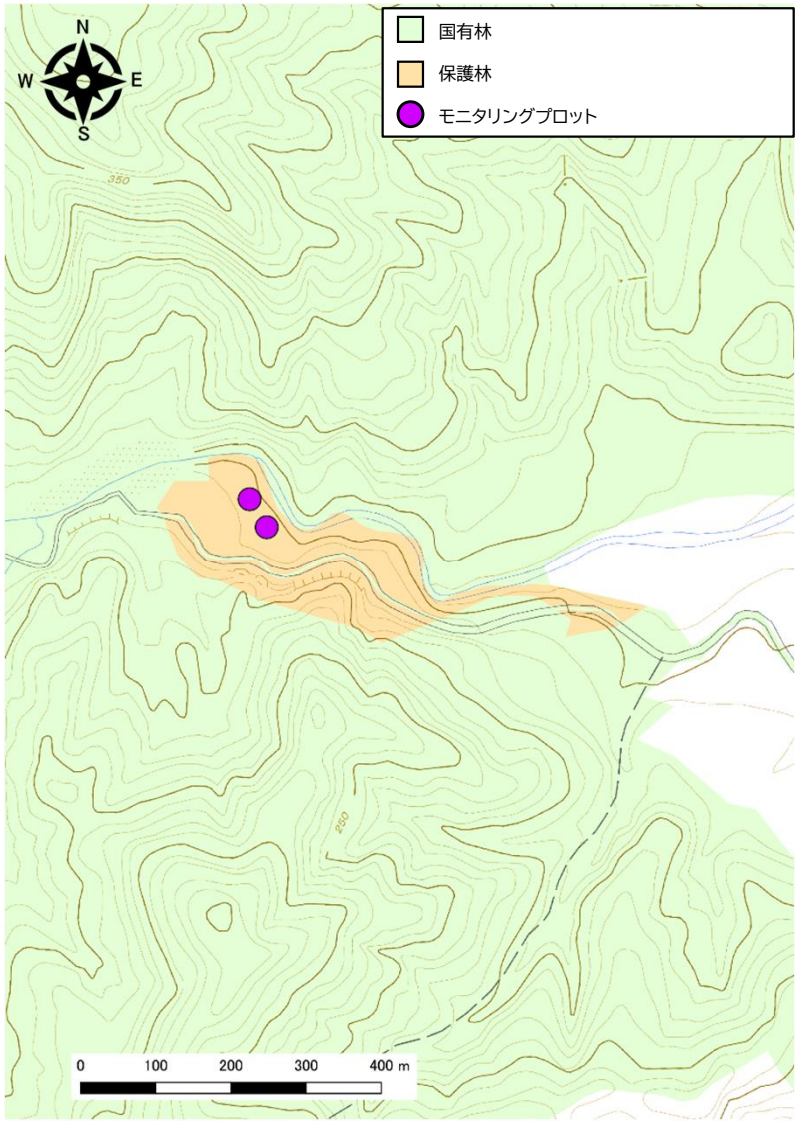
シカの食痕が多く確認されているため、臨時の森林概況調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査(樹木・下層植生)：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査(病虫害)等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

碁盤坂サワグルミ遺伝資源希少個体群保護林

面積	5.50 ha	保護対象	サワグルミ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・高木層にサワグルミが多いが、亜高木層以下には少なくブナが優占するため、今後ブナ林へ遷移していく可能性がある。
・プロット周辺の林道脇ではサワグルミの開花が多く見られた。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

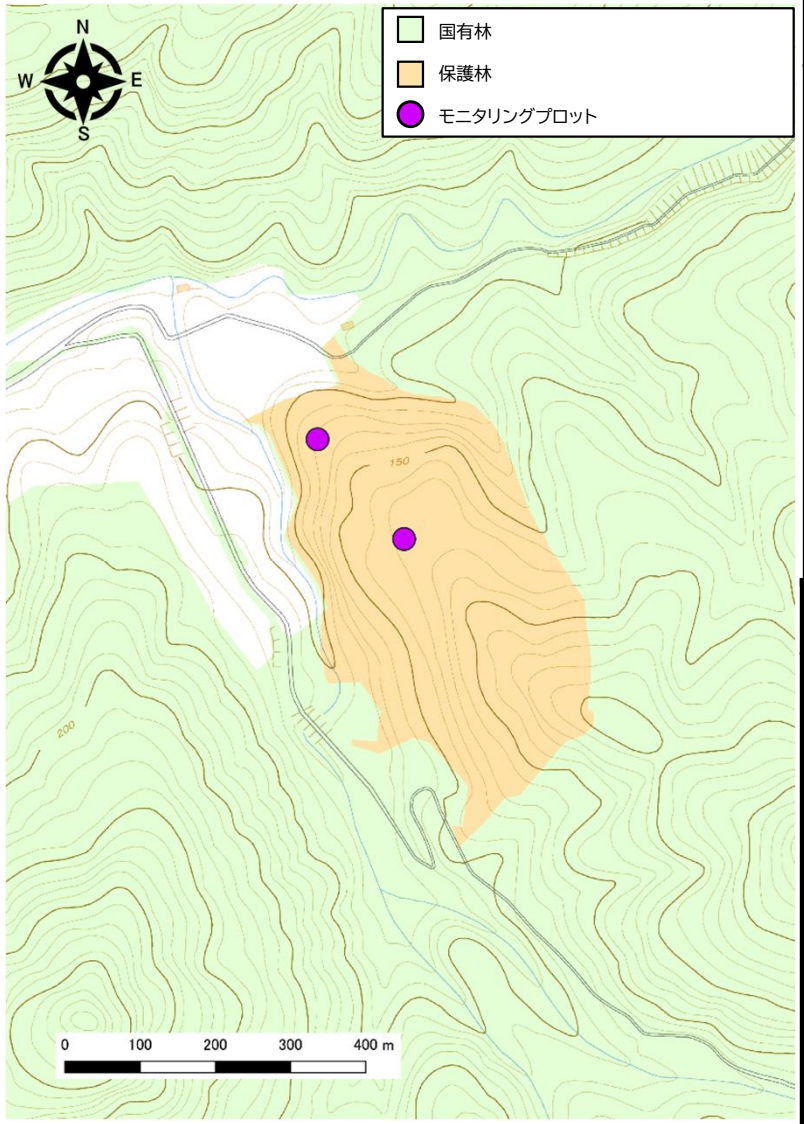
遷移途中と考えられるため、臨時の森林概況調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査(樹木・下層植生):1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査(病虫害)等:1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査同一ルート上で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

神恵内トドマツ遺伝資源希少個体群保護林

面積	17.00 ha	保護対象	トドマツ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[自然撹乱]
・林床はチシマザサが密生し、トドマツの実生、稚樹は見られない。
・立ち枯れおよび風倒木も散見される。
・保護対象種の立ち枯れもあり、今後の生育状況については留意が必要である
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

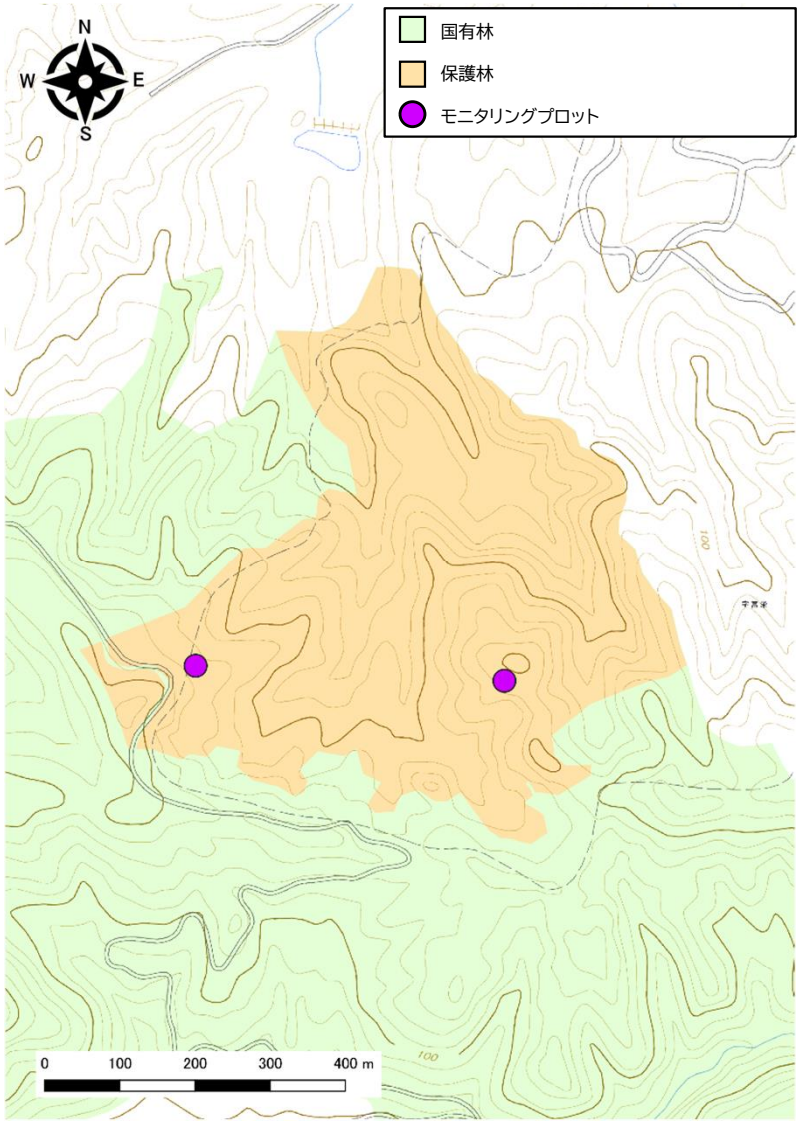
保護対象の生育状況に留意が必要という評価であったため、臨時の森林詳細調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林詳細調査(樹木・下層植生)：2地点
＜選択項目＞
・森林詳細調査(病虫害等)等：2地点※
※樹木・下層植生の森林詳細調査と同一地点で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

厚沢部ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林

面積	31.85 ha	保護対象	ミズナラ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[その他]
・主な構成樹種はヒノキアスナロで、そのギャップにブナ林が成立している。保護対象種はほとんど見られない。
・プロット2は、不到達。
・保護対象種の生育が少ないことから、今後の取り扱いに留意が必要である。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点 → うち1地点未実施

令和8年度モニタリング調査(案)

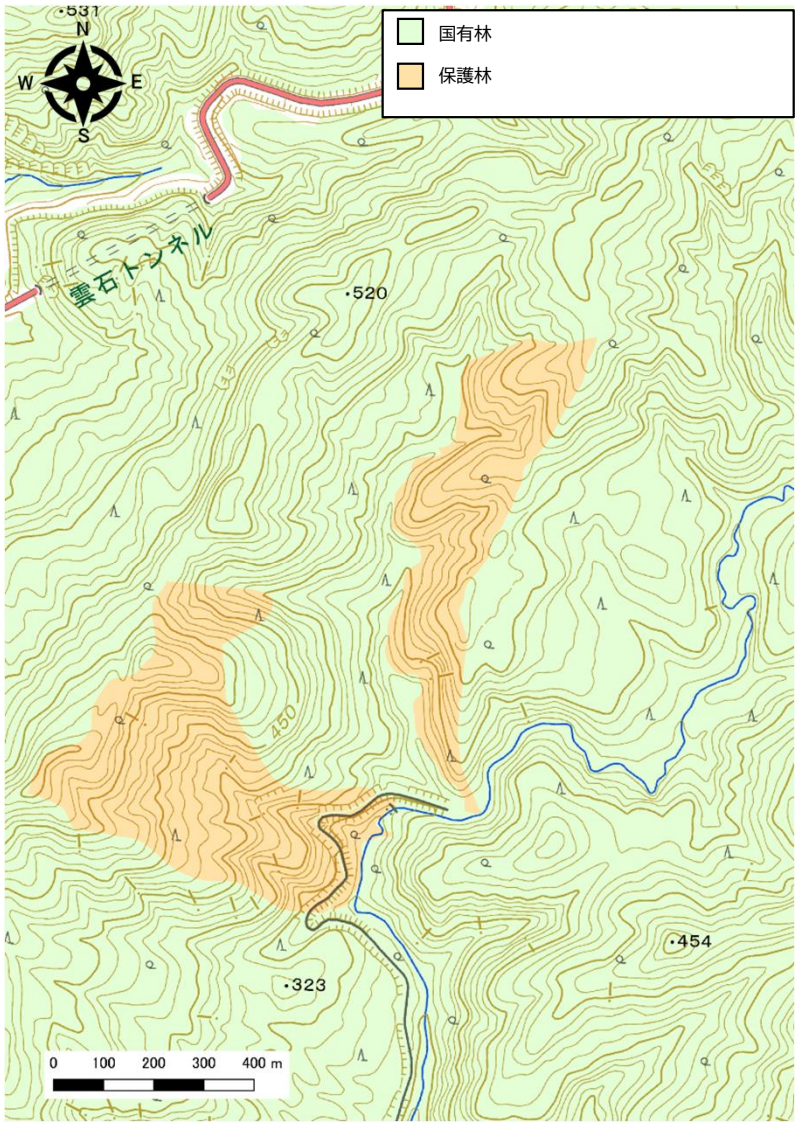
保護対象の生育が少ないという評価であったため、臨時の森林概況調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査(樹木・下層植生)：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査(病虫害)等：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルート上で実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

熊石ヒノキアスナロ希少個体群保護林

面積	13.00 ha	保護対象	ヒノキアスナロ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

不到達のため不明

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点　→未実施

令和8年度モニタリング調査（案）

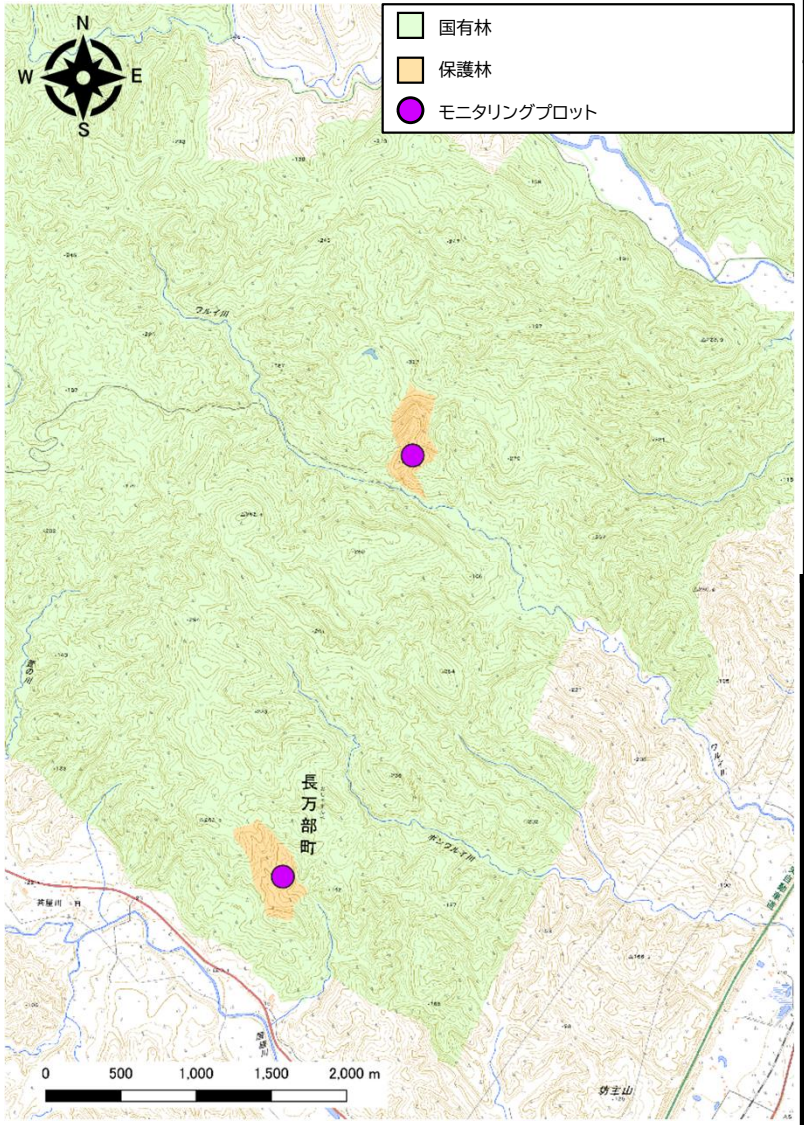
到達経路の林道が不通となっており、今までモニタリングが実施できていない保護林であるため、森林概況調査及び樹種分布調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査（病虫害等）：1ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルートで実施
・樹種分布調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

国縫アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

面積	33.25 ha	保護対象	アカエゾマツ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[自然攪乱・その他]
・プロット内外にアカエゾマツは散見される程度。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
・保護対象種の生育が非常に少ないことに留意が必要。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

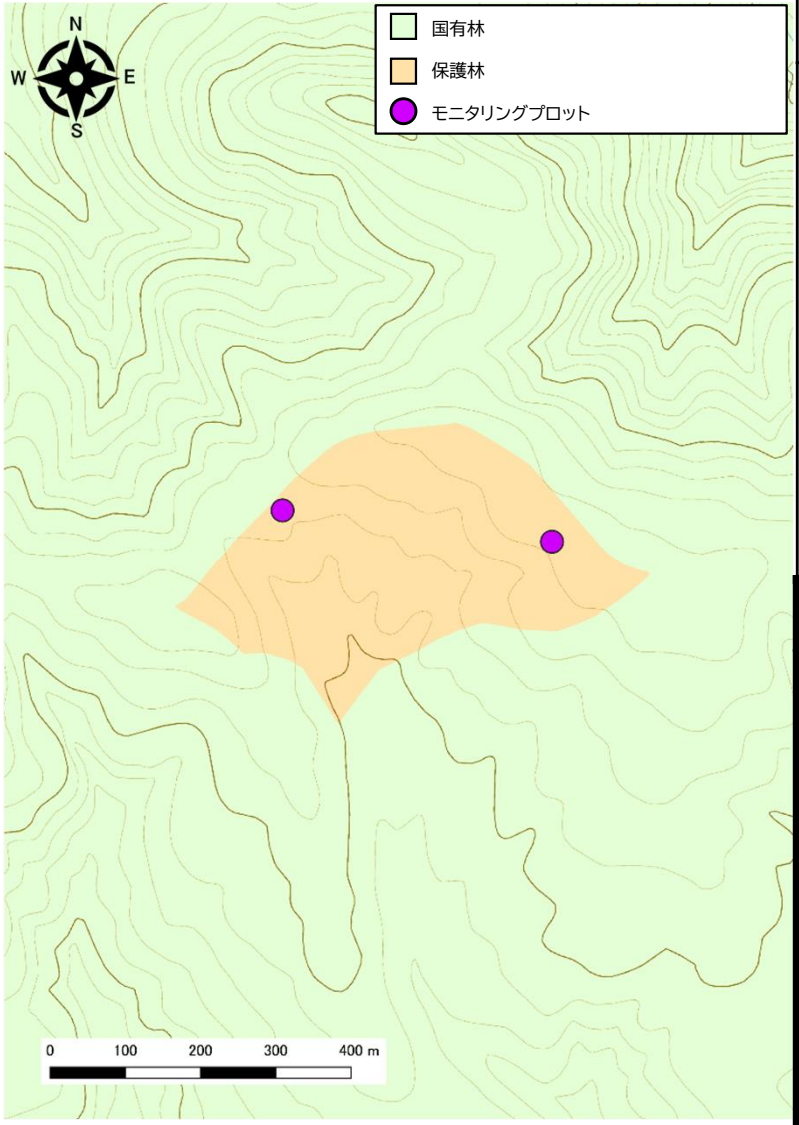
保護対象の生育が非常に少ないという評価であったため、臨時の森林概況調査を実施することとする。

【モニタリング調査項目】
＜必須項目＞
・森林概況調査(樹木・下層植生)：2ルート
＜選択項目＞
・森林概況調査(病虫害)等：2ルート※
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルートで実施

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

種川トドマツ希少個体群保護林

面積	12.88 ha	保護対象	トドマツ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

<u>不到達のため不明</u>

【モニタリング調査項目】

・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点　→未実施

令和8年度モニタリング調査（案）

前回モニタリングでは、<u>不到達であったため、臨時の森林概況調査</u>を実施する。
なお、調査プロットに到達できない場合は、ドローン等によるモニタリングを実施することとする。

【モニタリング調査項目】

＜必須項目＞

・森林概況調査（樹木・下層植生）：1ルート

＜選択項目＞

・森林概況調査（病虫害等）：1ルート※

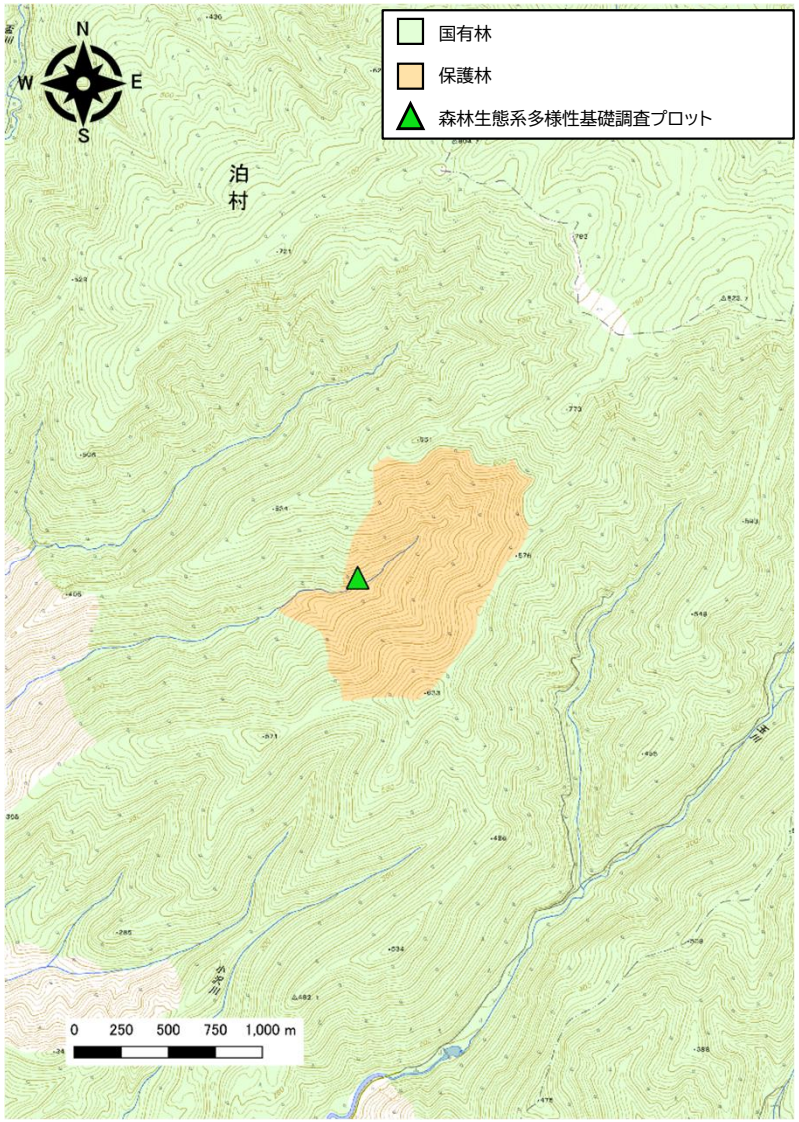
※樹木・下層植生の森林概況調査と同一ルートで実施

・樹種分布調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

泊アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

面積	104.41 ha	保護対象	アカエゾマツ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]

・高木層の生立木は健全な状態で、亜高木層にもアカエゾマツの生育が確認された。

・アカエゾマツを優占とした比較的健全な林分である

・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】

・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

・資料調査（森林生態系多様性基礎調査）：1地点

令和8年度モニタリング調査(案)

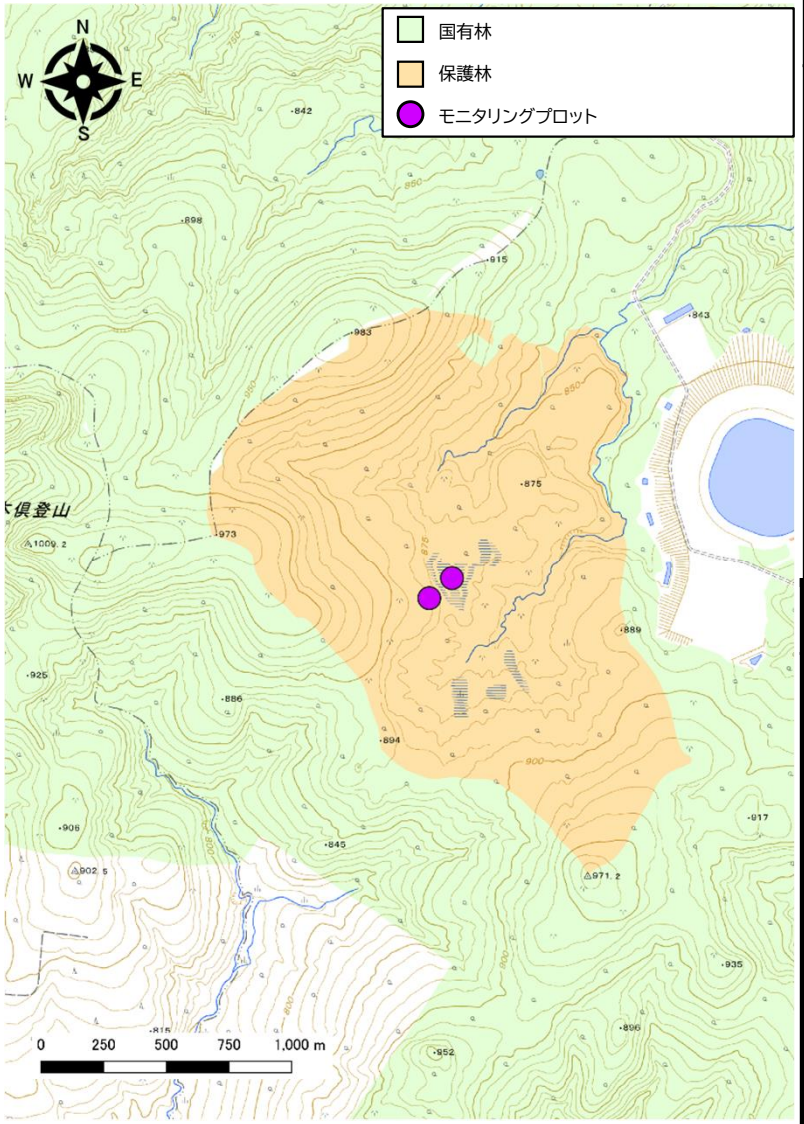
前回のモニタリングから5年後に当たるため、保護林内にて実施されている森林生態系多様性基礎調査の結果を資料調査として活用する。

・資料調査(森林生態系多様性基礎調査):1地点

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

ペーペナイ湿性植生希少個体群保護林

面積	262.42 ha	保護対象	高層湿原植物
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]

・雨の影響で湿原の水位がやや高く、植被率は下がったが、前回から大きな変化は認められない。

・樹林帯の林床にはチシマザサが密生するほか、マイヅルソウ、シラネワラビ、ヒメゴヨウイチゴ等が見られた。

・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】

・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

・資料調査（森林生態系多様性基礎調査）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

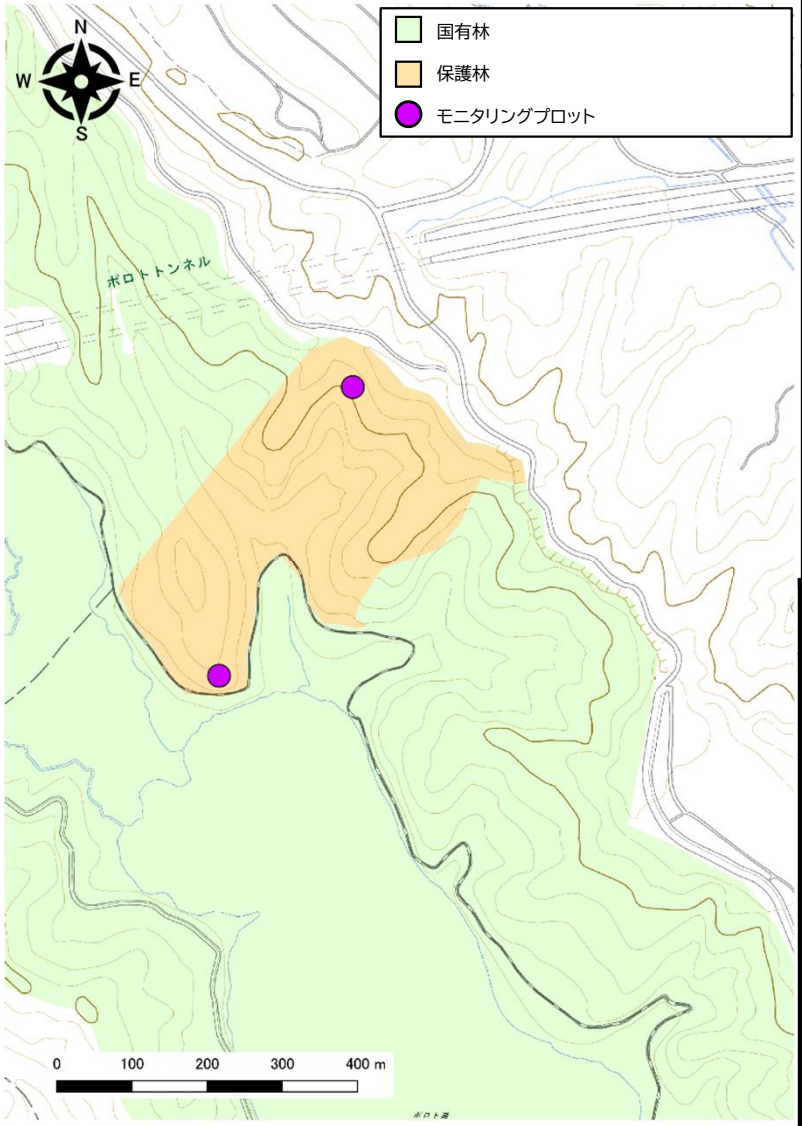
前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

白老クリ遺伝資源希少個体群保護林

面積	11.17 ha	保護対象	クリ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・クリの稚樹が確認された。
・林床はササが密生し、実生は少ないが、カエデ類、ミズナラの実生が見られた。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

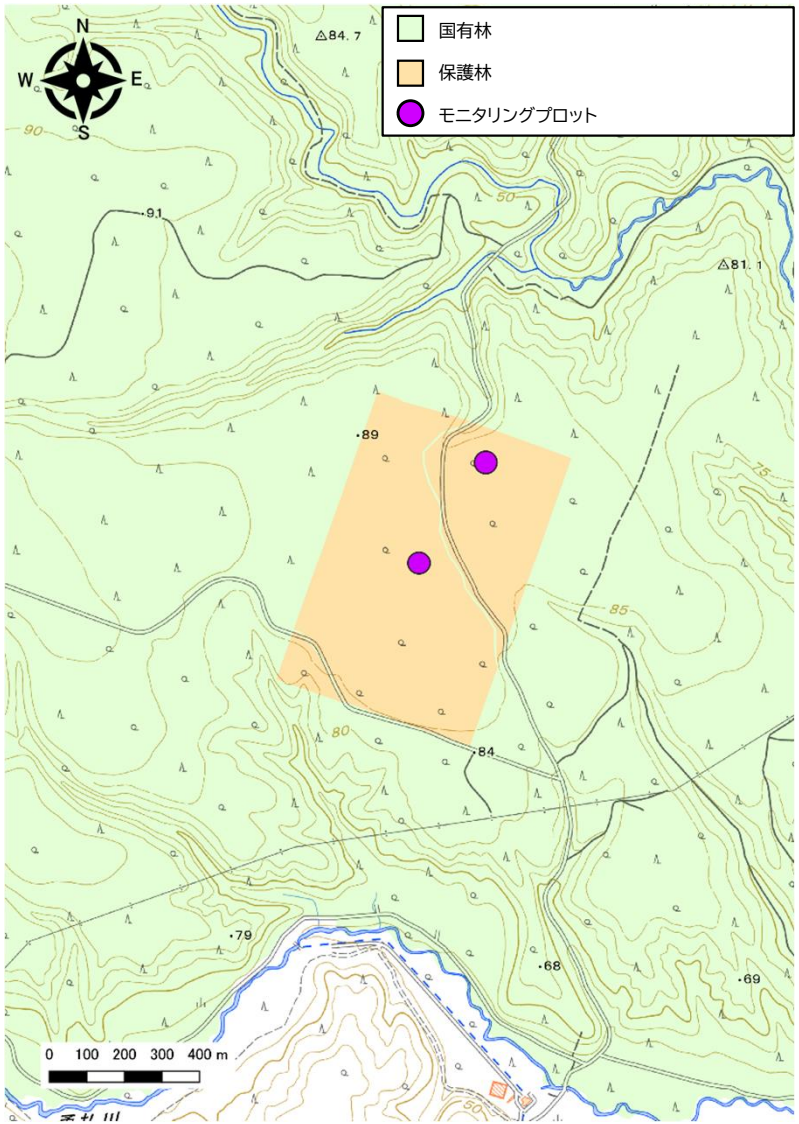
前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

苫小牧カツラ等遺伝資源希少個体群保護林

面積	43.37 ha	保護対象	カツラ、イタヤカエデ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・カツラの萌芽が確認された。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

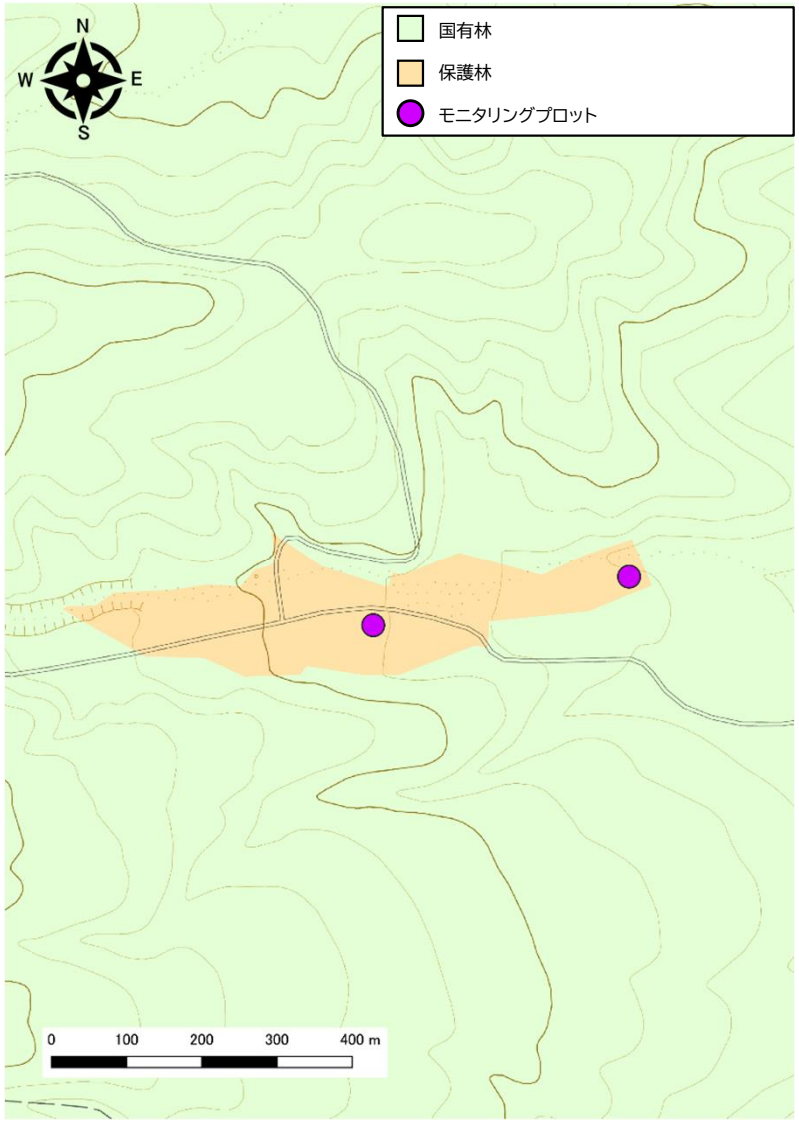
前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

糸井ケヤマハンノキ遺伝資源希少個体群保護林

面積	7.09 ha	保護対象	ケヤマハンノキ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・高木層で確認される生立木は健全な状態で、亜高木層にもケヤマハンノキの生育が確認された。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

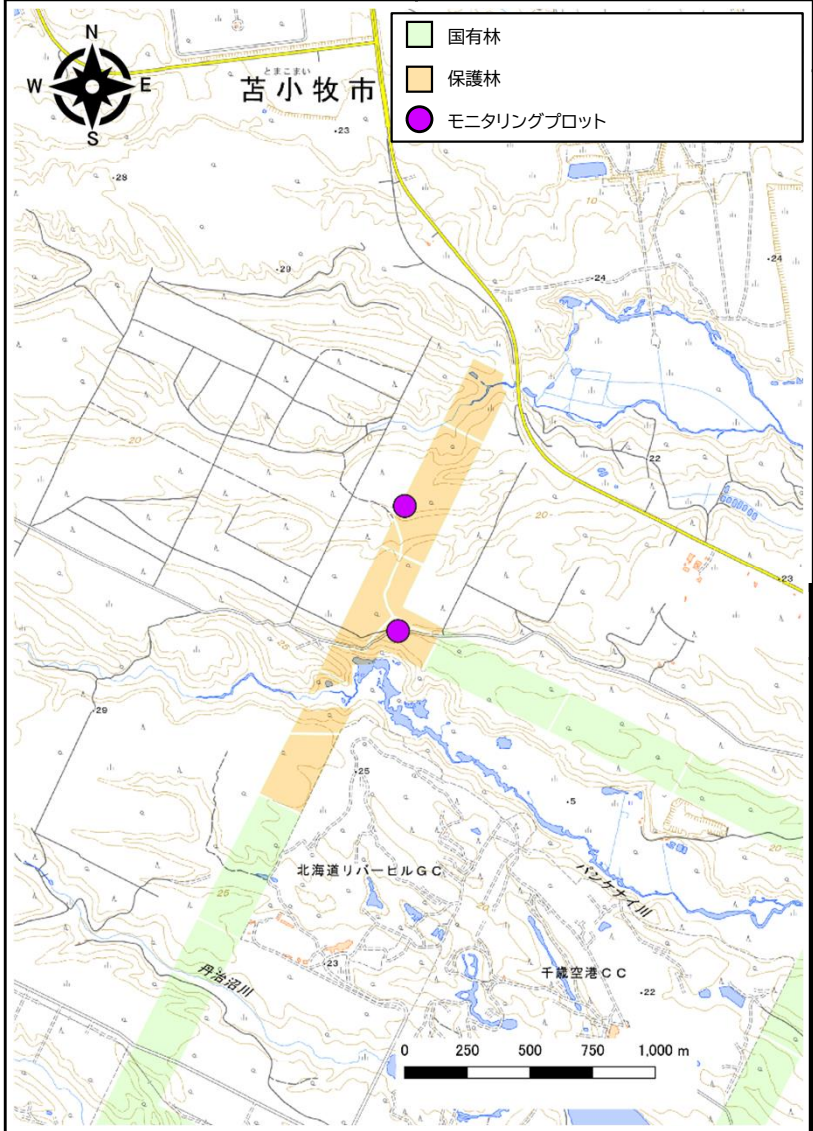
前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

植苗ミズナラ希少個体群保護林

面積	34.18 ha	保護対象	ミズナラを主体とする広葉樹
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・林分として良好な状態を保っている。
・ミズナラの個体数に多少の増減はあるが、更新木、実生が確認され、今後の更新が期待できる。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】
・森林詳細調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

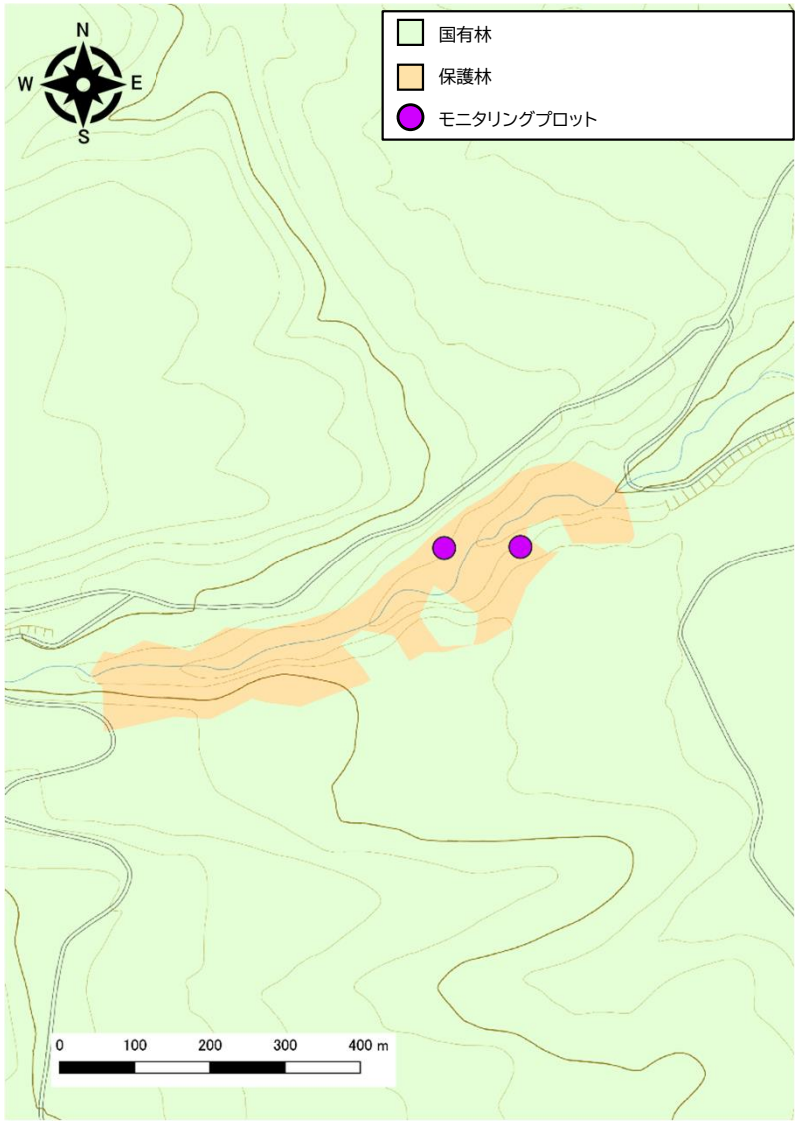
前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

幌加ケヤマハンノキ遺伝資源希少個体群保護林

面積	7.62 ha	保護対象	ケヤマハンノキ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・ケヤマハンノキ生立木の生育は健全である。
・ケヤマハンノキの実生および稚樹は見られないが、結実を確認した。
・林床はクマイザサが優占するが、被度が低い場所には湿地が点在する。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

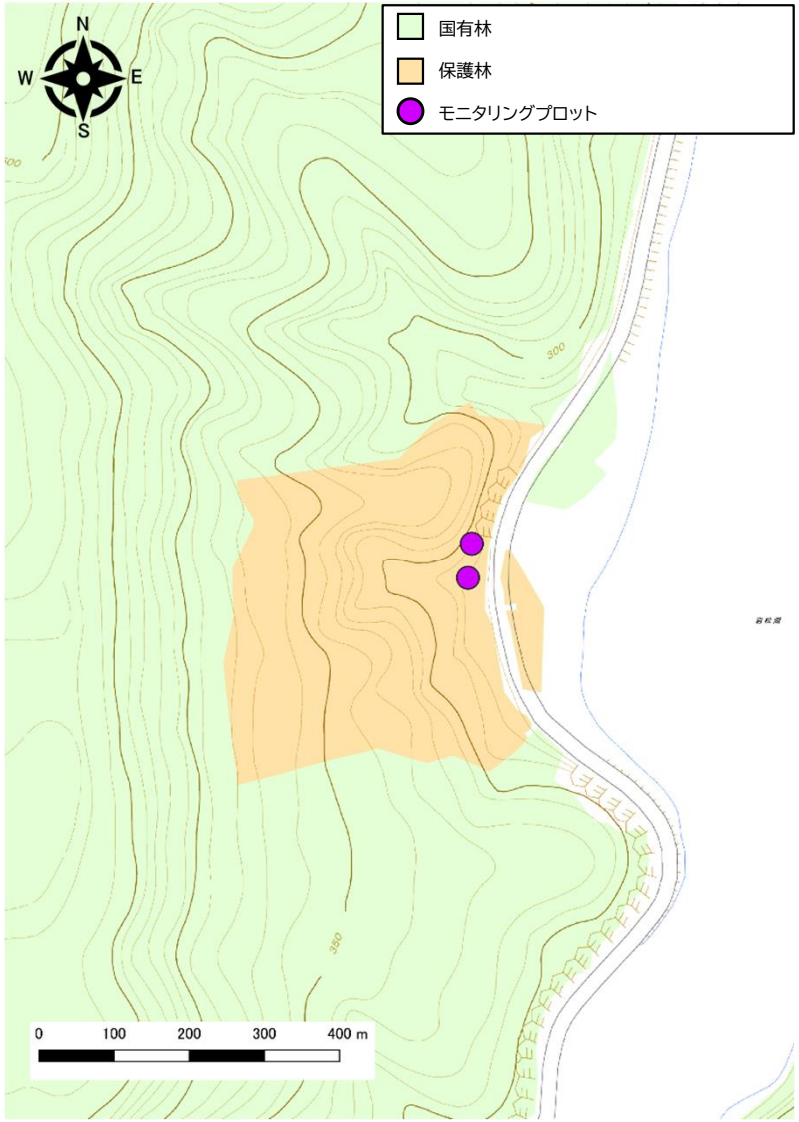
前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

屈足シナノキ遺伝資源希少個体群保護林

面積	14.93 ha	保護対象	シナノキ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・高木層の生立木は健全な状態であり、亜高木層にもシナノキの生育が確認され、健全な林分である。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

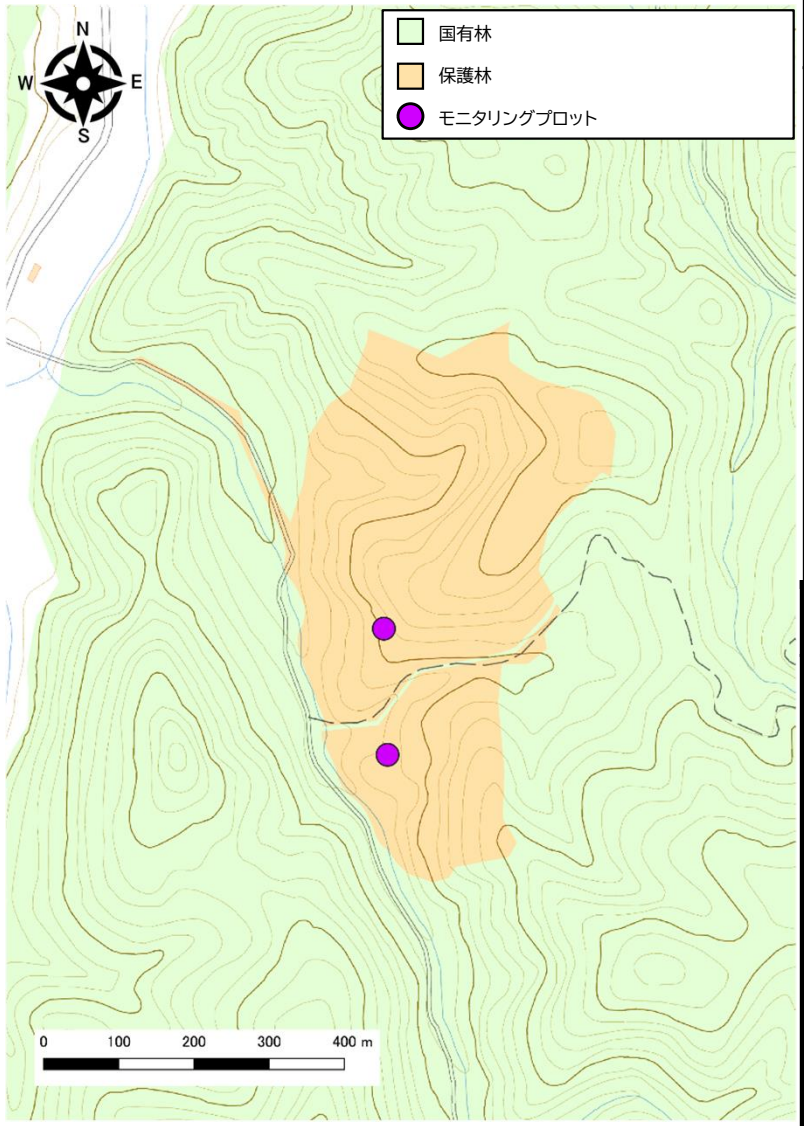
前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

御園エゾマツ希少個体群保護林

面積	19.76 ha	保護対象	エゾマツ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・エゾマツの生立木は健全な状態であり、その更新木（稚樹）も確認された。
・天然更新は順調に行われることが予想される
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査（案）

前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

歌才ブナ希少個体群保護林

面積	92.43 ha	保護対象	ブナ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		

※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・高木層の生立木は健全な状態で、亜高木層にもブナの生育が確認された。
・ブナを優占とした比較的健全な林分である
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

伊達アサダ遺伝資源希少個体群保護林

面積	5.20 ha	保護対象	カシワ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		

※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・大きな林況の変化はなく、アサダの実生も確認された。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査（案）

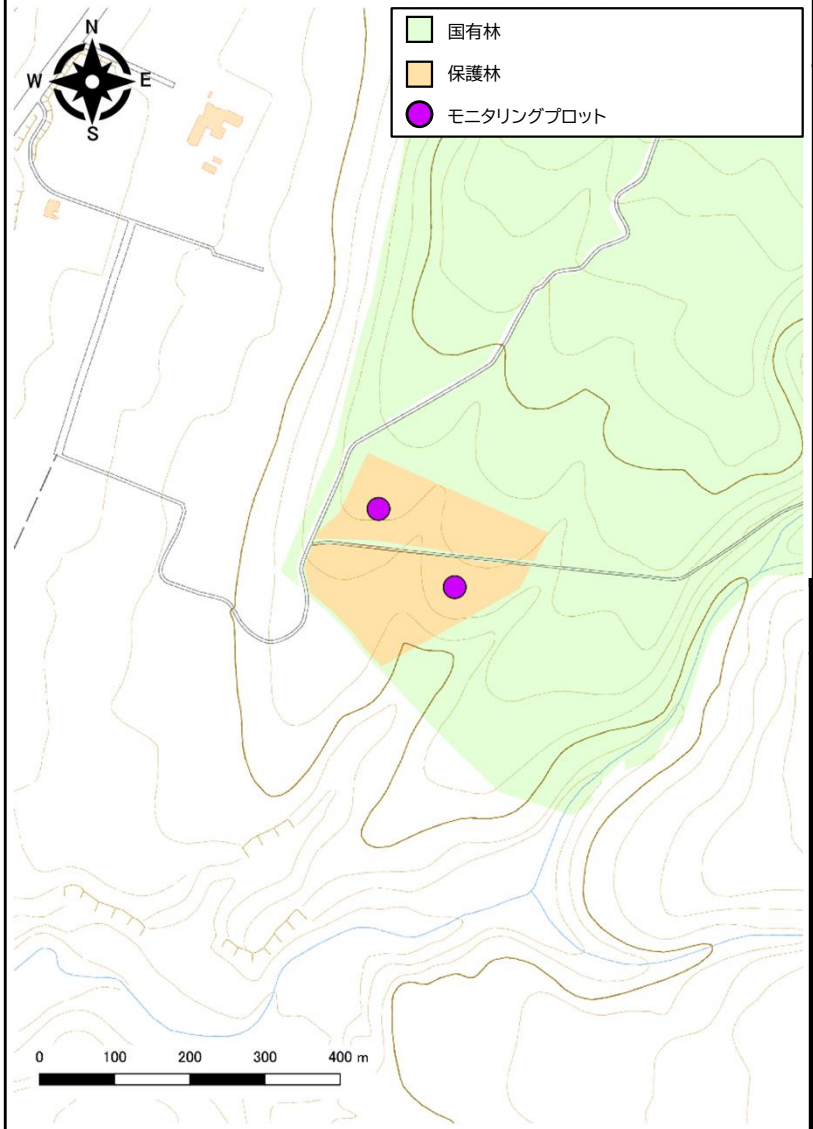
前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

寿都カシワ遺伝資源希少個体群保護林

面積	5.81 ha	保護対象	カシワ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]

・カシワの生育は健全であり、実生も確認され、天然更新は順調に行われることが予想される

・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】

・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

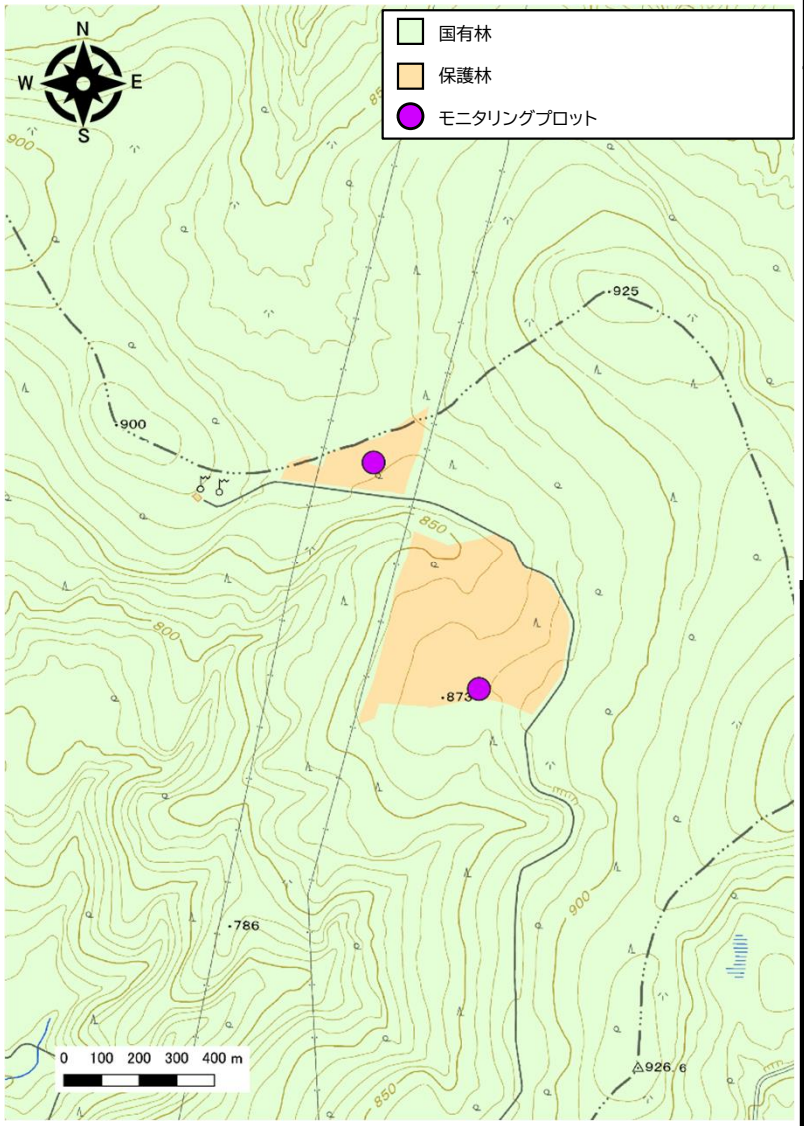
前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

中山峠アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

面積	24.50 ha	保護対象	アカエゾマツ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]

・アカエゾマツの生育は健全であり、稚樹および実生も確認され、天然更新は順調に行われることが予想される。

・引き続きモニタリングによる経過観察を行う

【モニタリング調査項目】

・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

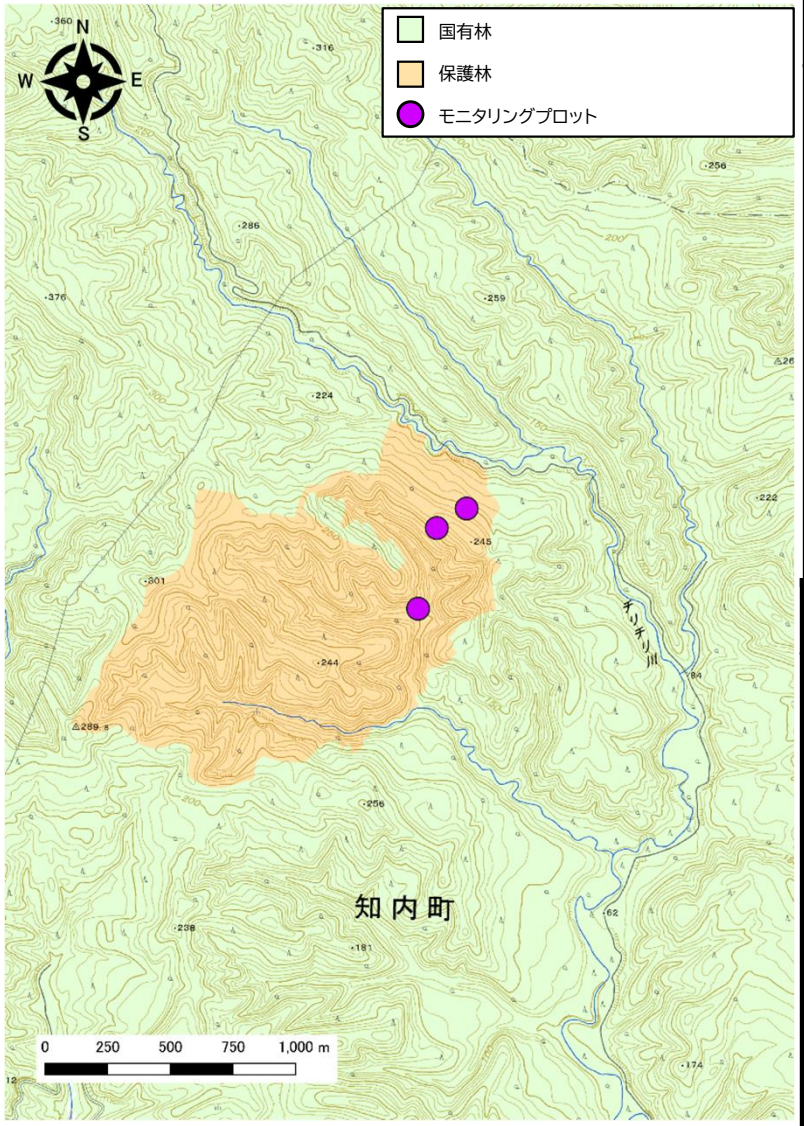
前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

チリチリ川ブナ希少個体群保護林

面積	138.14 ha	保護対象	ブナ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・各層にブナが見られ、更新は順調に行われることが予想される。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：3地点

令和8年度モニタリング調査(案)

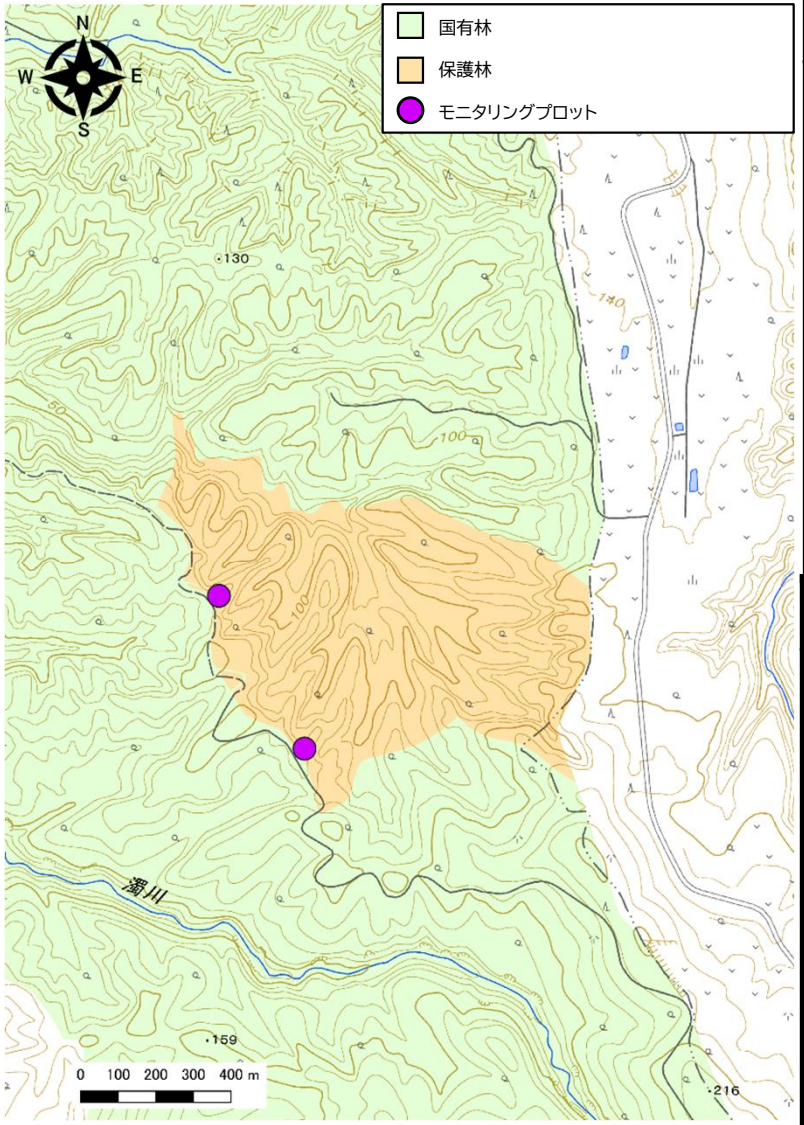
前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

若松トドマツ希少個体群保護林

面積	66.53 ha	保護対象	トドマツ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・トドマツの生立木は健全な状態であり、その更新木（低木、実生）も多数確認され、天然更新は順調に行われることが予想される。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査（案）

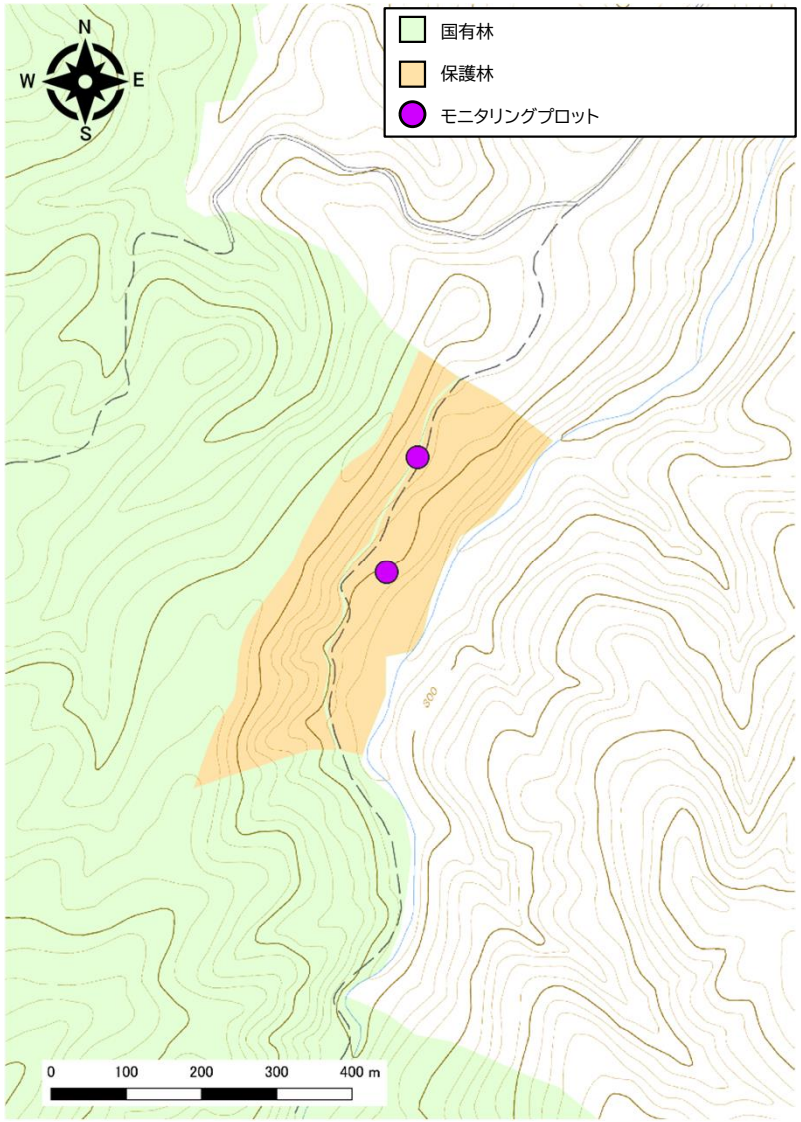
前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査

令和8年度保護林モニタリング調査予定箇所（個票）

八雲ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林

面積	33.25 ha	保護対象	アカエゾマツ
モニタリング間隔	10年ごとにモニタリング		



※地理院タイル（標準地図）を元に北海道森林管理局が編集・加工

前回モニタリング評価・課題・提案

確認された影響[特になし]
・高木層で確認される生立木は健全な状態で、亜高木層にもウダイカンバの生育が確認された。
・林床にササが密生しており、稚樹や実生の天然更新は見られない。
・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

【モニタリング調査項目】
・森林概況調査（樹木・下層植生・病虫害等）：2地点

令和8年度モニタリング調査(案)

前回のモニタリングから5年後に当たるため、職員による簡素な現況調査を実施することとする。

・職員による簡素な現況調査